

幼兒の教育

第十七號 七月九十二卷



東京女子高等師範學院校内会
市幼稚園協会

廣島高
師範學校教授
文學博士
久保良英先生新著

兒童研究所紀要 卷十二

大判一百元
全二十五圓三金料
一冊一百頁
錢八拾八錢

性行検査法の試み

作業に現はれたる注意の形に就て

個性調査の情意的一面

文學士 桐原葆見

兒童の身體的及精神的に發育

に及ぼす季節的影響の研究

迫田マツ

精神發達に應する轉導及應時間の變化

文學士

内田勇三郎

尋常小學校に於ける算術應用問題の分類

文學士

久保良英

一般智能検査の再検査成績

文學士

増田幸一

入學當初智能検査に關する研究的考察

文學士

久保良英

青年期に於ける自己意識に就て

文學士

久保良英

海外新著論文抄錄

	1	2	3	4	合輯
5	5	6	7	合輯	洋紙・背皮・紙數一千百餘頁
8	8	9	10	合輯	定價九圓五拾錢
9					洋紙・背皮・紙數二千二百餘頁
10					定價拾圓五拾錢

智能検査用具

A式
大判各冊
參錢

ボル紙型箱入
組參圓送料拾八錢
本用紙は久保先生の考案による兒童智能

兒童研究所紀要

教育的に先進國なる歐米諸國に於は、既に將來國家の構成に重要な位置を占むべき兒童を心理的、生理學立的に研究して純粹なる學的立場から益々其効果を收めると企て右施設に巨額の國費を擲ぎ、惜まざる今日獨り我が邦に、該機關の絶無なる研究を概し、久保博士等同好の士が私財を投じて設立せられたる研究所の貴重なる根柢は、恒に現代教育研究の最新智權威に現代教育に推奨せらる。

次目内容卷二十

精神發達に應する轉導及應時間の變化
尋常小學校に於ける算術應用問題の分類
一般智能検査の再検査成績
入學當初智能検査に關する研究的考察

ドクトル・オブ・フィロソファイ士
文學士
久保良英

增田幸一
久保良英

所行發行店書館文中

番七四八三京東舊振番五二三三込牛電

牛込區地番九卅町市良東京

保育並ニ遊戲講習目要項

一、期間 八月一日ヨリ四日迄四日間

幼兒教育ト低學年教育及體育ニ對シ聊貢獻センガ爲メニ開ク

午前之部

1、保育 (性情の教養) 東京女子高等師範學校教授 倉橋惣三先生

2、談話法 (作り方) 東京美術學校卒業本校講師 久留島武彦先生

3、手技製作 四時間

4、遊戲ノ撰み方、導き方、作り方 (二時間) 本校所長 清水七太郎先生

5、遊戲及表情遊戲ノ實際 (六時間) 土川五郎先生

四、資格ト定員 現職アル保姆小學校職員百五十名
既作教材ヲ加へ運動會學藝會資料ヲ教授ス

五、會場 神田一ツ橋通町東京一ツ橋高等小學校 (帝國教育會) ラ神保町又ハ商科大學前下車

六、講習料 午前之部 三國、午後之部 三國 午前午後兼修 五圓
入會シストスマモノハ住所職氏名ヲ明記シ七月三十一日迄 東京市外大井町五二〇番地東京昭和保姆養成所 (電話大森二二〇番) 近講習料ヲ添へテ申マルベシ、一度納付シタル講習料ハ返付セズ (振替東京六九二二四番)

八、宿泊 養成所客宿ノ外會場附近教會ニ橋寮又ハ指定旅館アリ、
一圓五十錢乃至一圓宿舍滿員ノ節ハ指定旅館ヲ紹介ス

九、會員 章講習料納入者ハ本所ヨリ直チニ會員章ヲ郵送ス
主催 東京昭和保姆養成所

貴任者 土川五郎
市外大井町五二〇八(原小學校前)



日本幼稚園協会編輯

主幹　吉岡七藏

東京女子高等師範學校長
附屬幼稚園主任事務

堀七藏

日本幼稚園協會規則

第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ル

チ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ

關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノ

トス

第四條 會員ハ年費トシテ一ヶ月金參拾五

錢ヲ繳出スヘシ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業

ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員

トナスコトアルベシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會

ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ナシヘラル、モノニ

請ヒテ地方委員トナスコトアルベシ

第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場

合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ

一、幼兒教育ニ關スル研究及ビ調査

二、幼稚園ニ關スル講演會及ビ講習會ノ

開催

一、雑誌發行（毎月一回）

一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介

一、其也本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル

事件

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長　一名　會務ヲ總理ス

主幹　一名　會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌

理ス

幹事　若干名　會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ

分掌ス

評議員　若干名　重要ナル事件ニ關シ會長

ノ諮詢ニ應ズ

第十條 會長ハ客員中ヨリ推舉スルモノト

シテ會長ヨリ推舉スルモノトス

第十一條 主幹　幹事　評議員ハ二ヶ月年ヲ期

シテ會長ヨリ推舉スルモノトス

第十二條 本會ハ必要ニ應シニ委員ヲ設ク

又ハ書記ヲ雇入ル、又アルヘシ

以上ノ同意ヲ得ルニアラザレハ變更スルコ



第十二卷 第一號 幼兒の教育

—(次) 目—

口 繪 米國イリノイ州立師範大學附屬幼稚園

夏季講習會豫告

七

私の觀察したる米國の幼稚園教育

堀

リツムの教育

小 林 宗 作

五

倉橋先生の「保母と詩感の教養」を讀みて

字 都 野 研

二七

保育座談會

三一

ち話の調べか話方の研究か

長 尾 豊

四九

ユーカリ樹の實に就て

膳 真 規 子

三三

セルリの栽培

(五)

大 岩 金

五六

童話二題

水 谷 年 恵

六一

遊戯 兎ラヂオ

土 川 五 郎

七八

遊戯 金魚の晝寝

久 保 富 次 郎

七八

雑 錄

七四

幼兒の手技研究會

御大典紀念 折紙帖 頒布
賜 照宮殿下台覽

一、幼兒及小學校低學年の手技教育の完成を目標としての研究

一、資料は本會獨自のもの及び全國各幼稚園から提出になつた結構なものとどしき紹介す

一、毎月一回研究製作會を開催し、一は幼稚園に毎月

新しい手技の資料を供給し又一は保姆先生に手技手藝の趣味を養ひ器用を修練せしめんとす

一、遠方の方及び出席しがたい方の爲に通信研究部を設け、毎月會の資料を製作して見本として提供す。

價格 特上製 全一冊 金七圓五十錢のと拾貳圓

(獻上型大判)のと二種(包裝料小包料は別に申受く

りませんがいつでも申込順に出来たそばからお送り申し上げます。

御入用はハガキにて御申込のこと、急ぐわけには参りませんがいつでもお申込順に出来たそばからお送り申し上げます。

一、會費送料共毎月六十二錢

五月から小包でなく第四種郵便になり何處へでも二
錢で參ることになりました

一、通信研究部會員は右毎月會費を三ヶ月六ヶ月一ヶ

年等にまとめて送附のこと(振替、小爲換)但し送

金は各園の都合のとさにてよろし、ハガキ御申込次

第毎月會の資料送附す、中途御退會の場合にはハガ

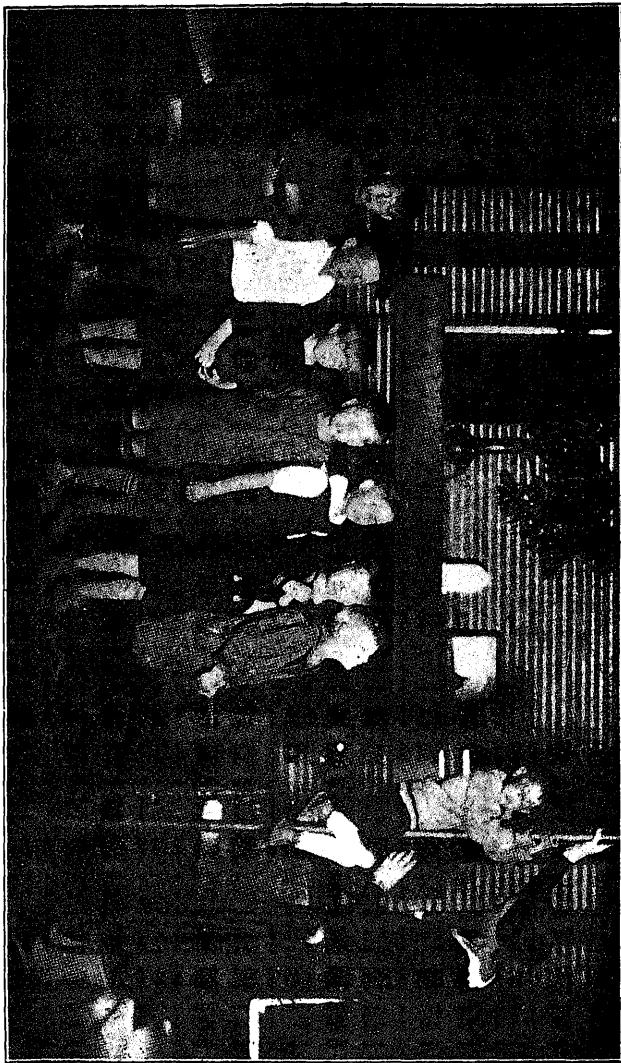
キ御一報有之度

東京市牛込區納戸町六番地
東洋幼稚園牛込分園内

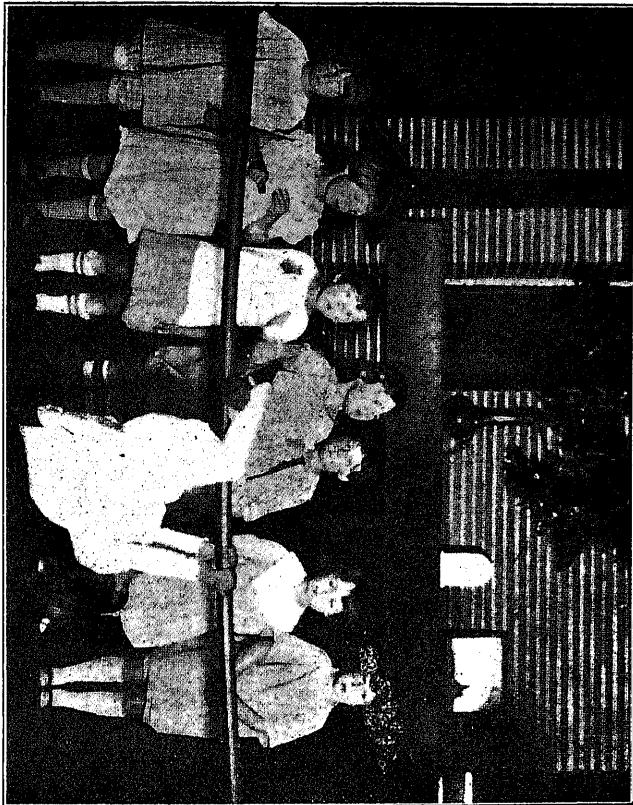
昭和四年七月

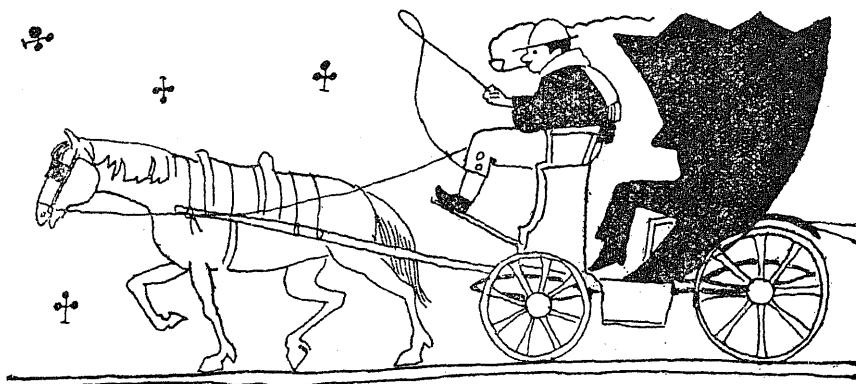
久門嘉祐
(どちらでも振替がよろしい)
東京六六五八〇番

九月廿四號新嘉坡的風景



ろことれつ下らぶに棒鐵が兒女





號七第 幼兒の教育 卷九十二第

昭和四年七月

一、教育で家庭教育位重要なものはありません。家庭教育の良否は實に人一生を支配し國家の發展を左右するのであります。最近の學術は益々家庭教育の重大なる使命を立證し近時の社會現象は善良なる家庭教育の必要を痛感せしめています。

一、幼兒の教育は本邦唯一の幼稚園保育に関する發表機關であります。而してまた本邦唯一の家庭教育雑誌であります。

一、幼兒の教育は幼兒の教育、即ち家庭に於ける教育と幼稚園に於ける教育、更に小學校初學年教育に關する事項は細大となく網羅し、以て家庭教育の向上を計り、幼稚園保育の進歩發展を期する大抱負をもつて產れたもので有ります。

夏季講習會豫告

二

日本幼稚園協會主催幼稚園遊戲講習會を東京女子高等師範學校講堂で開催いたします。

一、期　　日

昭和四年七月二十六日より三十日までの五日間、毎日午後一時より同四時まで

二、講師及題目

前東京女子高等師範學校教授　高橋きやう女史

幼稚園に於ける遊戯の理論と實際

東京府立第六高等女學校教諭　戸倉ハル女史

幼稚園に於ける遊戯の實際

三、會　　費

一人金參圓、幼稚園協會會員は一人金貳圓五拾錢

四、申込手順

講習會入會希望者は住所、職、氏名を詳記し、来る七月二十日までに東京女子高等師範學校附屬幼稚園内 日本幼稚園協會事務所宛にて御申込下さい。

會費は日本幼稚園協會、振替口座東京一七二六六番に御拂込下さい。

五、注 意

七月二十六日より同三十一日まで毎日文部省主催、幼稚園に關する講習會が東京女子高等師範學校に於て開催せられる筈ですが、それと本會主催の遊戲講習會とは全く關係がありません。文部省主催の講習會に出席希望者はその府縣に申込み許可を得ねばなりませんが、本會の講習會に出席希望者は直接東京女子高等師範學校附屬幼稚園協會に御申込下さい。兩者を取違ひぬやうに御注意下さい。

昭和四年七月

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

日本幼稚園協會

私の視察した米國の幼稚園教育（シカゴの卷）

堀 七 藏

一、デトロイドからシカゴに入ったのが二月二十二日。デトロイドはヒューロン湖とミシガン湖とに挟まれたミシガン州にあるから、途中エリ湖畔にあるトレードで汽車を乗換へました。このトレードはオハイオ州で更にインヂヤナ州を通つてイリノイ州にあるシカゴに來た譯であります。この地方は北米合衆國の中部ともいふべく、スペリオル湖、ミシガン湖、ヒューロン湖及びエリー湖に臨んだ地方で北米合衆國東部海岸地方とは大變に違つた點がある。その相違點を並べる必要はないが茲に一つだけ人種が雜多であることを數へねばなりません。次に表解するやうに米國はどこでも人種が雜多であるがこの地方は殊に著しいのであります。

州名	白人	ネグロ	イニヤアン	支那人	日本人
マサッセッツ	三八〇	萬人	五五五	人	一九一
——	一一〇		五、五〇三		五、七九三
ニユーヨーク	一〇一七		二、六八六		

イリノイ	六三〇	一八	一九一	二、七七六	四七二
インヂアナ	二八五	八	一二五	二八三	八一
ルイヂアナ	一一〇	七〇	一、〇六六	三八七	五七
ミシシッピ	八五	九四	一、一〇五	三六四	〇
カリフオルニヤ	三二六	四	一七、三六〇	二八、八一二	七一、九五一
右の表は東部、中部南部西部と代表的に表示したのであるが、一九二〇年に於ける白人と有色人との對照が分りませう。次に外國産の白人についての國別を示します。					
國名	マサッセツ	ニューヨーク	イリノイズ	インヂアナ	ルイヂアナ
オーストリヤ	ハ、〇六六	一五、一七二	四六、四五七	九、一〇〇	七三
キヤナダ	三五、〇一	一一、九七	三八、三五	五、〇五五	一三、二六四
チエツコ	三、三八	三八、三四	六、七〇	三、九四	三、三七
英	八六、八五	一三五、〇五	五七、四四七	一、一五三	三九
獨	三三、一三	二九五、六五	一〇五、四九一	三七、三七七	五九〇
ハンガリー	一、一六七	七八、三七四	三四、四七七	九、三五一	九三九
アイルランド	一、三、一七一	二八四、七四七	七四、三七一	三〇四	六七、一八〇
					四二三
					四五、四〇八

イタリイ	一一七、〇七	四五五、一七三	九四、四〇七	六、七二二	一六、一六四	一、八二一	八八、五〇一
ノルウェー	五、四九一	二七、五七二	二七、七八五	五四四	五五五	九七	一一、四六〇
ボーランド	六九、一五七	三四七、五九	一六、一四〇五	一七、七九一	三七七	三一八	七八、六二一
ロシヤ	九二、〇三四	五三九、三四	一七、八九九	七、六七三	一、九二八	八二八	二七、三三四
スウェーデン	三六、〇一三	五三、〇一五	一〇五、五七七	四、九三二	五三三	二四七	三一、九三五
この表を見るとアメリカでも地方によつて人種が異なることが分りませう。ニューヨークボストンを中心とした東海岸地方には英國人愛蘭人が多いが、シカゴを中心にした中部地方には獨逸人、ボーランド人、ロシヤ人、スウェーデン人等が比較的に多いのであります。しかしアメリカ合衆國では到る所各種の民族がそれゝその特色を發揮してゐることは到底我が國などで想像も及ばないことがあります。							

2、ヨーロッパの汽車中では子供を連れた婦人を見るのは獨逸と伊太利だけであります。アメリカでも東部地方の汽車では一人も子供を見なかつたのであるが、デトロイドからシカゴの途中ではそれでも子供を連れた婦人を極少數ではあるが見かけたことは誠に珍とする所であります。これはこの地方には子供を連れた移動者のあることを示すもので獨逸人などの多い結果であります。

3、シカゴはミシガン湖の西南岸にある内地の大都會であります。人口は三百萬以上、米國第二の都

市で世界で第四か、第五位を下らぬ所であります。それが百年以前にはアメリカネグロの住んでゐた一村落にすぎず、一八六〇年には人口僅に十一萬。その後十年毎に三十萬となり、五十萬となり、百十萬となり、一九〇〇年には百七十萬となつたのであります。その後も益々發展し一九一〇年には二百二十萬となり、一九二〇年には二百七十萬となつて、一九二六年には三百萬を突破してゐるといふ急激な發達をなしてゐるのであります。

シカガ市は一八七一年十月の大火後の新計劃によつた近世都市の見本で、ミシガン湖に面して大公園をつくり之に平行して南北にミシガンブルバード、ステートストレート等の大通があり、是等と直角にシカゴ、グランド、マデソン、チャクソン、ルーズベルト等の大通が東西に交叉して全く碁盤目になつた整然たる大都會であります。そして一のブロックが百番地になつてゐるから一三一二番地とあれば、それは十三町目の十二番地といふことが直に分るやうになつてゐます。従つて一寸慣れると誠に分り易いので迷子にならうと願つてもなれない位であります。しかしこのシカゴ市の區域は大變に廣く東西十二哩、南北二十五哩もあるからたまりません。

二

1、二月二十五日イリノイ州立師範大學を參觀すると茲には附屬小學校があり、附屬幼稚園があります。尤もこの二つは練習學校として附屬してゐるので、キンダガルテンは只一組しかありません。

幼稚園は突當りの明い廣い室で、入つた右側が壁で、一面に戸棚があります。幼兒の使用する玩具や積木などが入れてあります。入口の左側の壁が黒板となり、その前に滑り臺が置いてあり、また滑り臺と並行して室内砂箱が置いてあります。黒板に沿ふて廻ると窓になつてゐて、その兩脇に小さな戸棚があり、窓には植物の鉢が三ヶ所も裝飾的に置いてあり、また腰掛が窓下にあります。更に突當りの壁の方へ廻ると切紙細工を載せた臺があり、粘土細工をする臺があり、窓には植木鉢が飾付けてあり、額も二枚掲げてあります。また米國の國旗が備付けてあり、人形などを載せた臺と並んでピアノが一臺あります。幼兒用の卓子は七個あつて四五人一卓子にかけることが出來ませう。

2、幼兒は二十九人、保母二人に練習生が一人ゐます。幼兒に造り花を觀せて、それについて話をさせた後、指を二出していくらか、三本出していくらか、一本と三本とでいくらか、各自の指で數へせたのであります。是等は小學校的に觀察と算術とを併せたものでありますが、幼稚園では小學校的に時間を定めて確實にやるのではありません。しかし毎日事物の觀念を明確に得させること。觀念につき成るべく發表させること。數へること。等を幾分かづゝ行つて幼兒の精神の發育を促進し小學校教育と連絡して幼稚園時代より學習出来る程度の平易なこと、基礎觀念を收得させるといふ保育であります。幼稚園時代に於て學習させる方が適當なるものを無理に小學校まで持越さねばならぬことはないのですから、基數の觀念や事物の觀念は成るべく幼兒にも收得させることを目的となすもの

であります。我が國幼稚園の或るものは小學校の如く無理に行儀よくさせて、そのためにいろ／＼と小言をいひつゝ、幼兒に分りもせぬことを説明するものが少くないのです。このシカゴ州立師範大學の幼稚園では強いて一に三を足していくらになるか、三と四とぞいくらとなるかといふ算術教授をなすのではありません。幼兒の生活には數の觀念の收得をなすことがあります。それを幼稚園に於て助長するのであります。積木を遊んでても二と三とどぞいくつになるか二と四とどぞいくつになるか知らず／＼の間に幼兒は數の觀念を收得してゐるのですから、保姆が特に注意して幼兒の心をそれに向け、意識的に數の觀念を明白になすことを行ふにすぎません。

3、それから Spring come on the hill といふ言語の教授を數分回行つた後、幼兒を便所に連れ行き水を欲するものには水道栓から直にのませてゐます。この點も一寸アメリカの幼稚園式であります。アメリカは乾燥するし、食物はパンで水分を攝取することが少いから幼兒にも必ず冷水をのむことを衛生上の原則としてゐるのであります。アメリカでは水をのんだから胃腸を害するといふが如きことは絶對になく、却つて水を呑まないが爲に日射病にかかることが多いから、小さなときより一日に冷水を三杯以上必ずのまねばならぬといふやうな原則が實行せられるのであります。面白いことはシカゴの水道はミシガン湖を水源として居りますが、下水もミシガン湖に排出するのであります。勿論水源と下水口とは相隣つてゐる譯ではありませんから左程問題とする程のことはなく、ミシガン湖は非常に

大きいから水道の水が直に下水と相混ずる譯では無論ありません。また水道は湖岸より可也遠い所の水を吸上げて淨水するやうになつてゐます。兎に角湖水を淨水して衛生上冷水で呑んで決して衛生上絶対安全といふ程度になつて居ります。元來飲料としては冷水は湯よりもよいのであるが我が國では衛生上不良の水が多いから普通冷水とのませぬ工夫が行はれてゐるのであります。東京 大阪、京都などの如き水道設備のある所では冷水とのませるやうに躊躇しても決して悪いことではありません。尤も我國では食事の時、相當の水分を攝取するのでありますから、アメリカの如く特に冷水をのむやうに訓練せねばならぬことはありません。

4、それから保育室に歸り直徑五纏、長さ三メートル許の鐵管の棒を出して壁に斜に立てかけ、男兒を一人／＼その棒に猿のぶらさがつたやうに上ぼらせます。女兒には保姆が二人でこの鐵棒の兩端を持ちて、手で棒を握り足を鐵棒にからませてぶら下らせます。そして適當に左右に振るのであります。度胸よく鐵棒に全身をぶら下らせるものは少いのであります。これは運動といふよりも手足で全身を懸垂するものであります。鐵棒で器械體操をなす程の膽力を養ふことが出来るもので、幼兒が鐵棒につながることは勿論不可能でありますから、足が床につく程の高さで鐵棒にぶら下がらせて全精神の統一をさせる手段であります。多少冒險的な運動動作でないと幼兒が全精神を集注することが困難であります。また誰にでも必ず出来るものでは一生懸命になつて努力することが出来ません。簡単に鐵棒

でぶらさがるだけではありませんが仰向けてありますから床板からの距離が僅でも分らず、幼兒は一生懸命になつて手で鐵棒を握つてゐるし足を鐵棒にからませるのであります。如何なる幼兒にも冒險の本能があり、木に攀ぢることに興味を有するもので、この本能を満足させて幼兒の精神統一の練習をさせる簡単な手段であります。尤もシカゞの如き大都會で幼兒が高い所に攀ぢのぼる機會もなく、木につかまつて全身を支へるが如き運動の出來ない所では誠に必要なことであります。我國の田園の幼稚園などでは幼兒は特別な鐵棒などを準備せずとも木上りも出來、高い段々上ることも出來ます。その際「危い！ 危い！」で絶対にかゝる動作をさせないことはよくありません。自然にある小高い丘は成るべく保存して、それを上つたり下つたりするやうにするだけの用意が必要であります。また木のぼりをなすことが出来るものがあれば、それを利用するだけの度胸が保母に必要であります。その代り充分注意して危険を防止することが肝要であります。安全第一を萬事について八ヶましくいふアメリカで、わざ／＼危険な運動をさせる眞意を味ふことが必要であります。何でも外國の眞似をする必要はありませんけれども幼兒の心身の發達する経過に於て必要なものを全く取除いて所謂溫室保育を行ふことは警戒せねばなりません。

鐵棒下りが一通りすんだ後幼兒を床の上に坐らせたり立たせたりした後、男女児に分けてリズム的な運動をさせました。これは遊戯といふよりも運動といつた方がよいと思はれる位なものであります。

體操的な性質の濃厚な運動でありますから面白いといふよりも幼兒の基本的な運動をさせて大きな筋肉の伸縮を主とするといったものであります。所謂遊戯で手先だけのリズムを主としたり器用な表情を主とするものとは大に違つてゐるのであります。

5、それから幼兒が家庭ごとくつた切紙細工のよいものを凡ての幼兒に示した後ワシントンの話を保姆がいたしました。それで大體保姆が中心になつて三十人位の幼兒を統一的に保育するものであります。従つて幼兒の自由にまた勝手にいろいろの遊や作業をさせるといふのではありません。多少小學校の學級式に統一した保育をなすのであります。しかし一々保姆が命令したり無理に注意を保姆の方に集中させるために幼兒を制止するやうな保育でもありません。保姆の方に相當立派な具案的な保育方法を考へつゝ成るべく幼兒の本性に基いて保育する所にこの幼稚園の保育の妙が存するやうに思はれます。單に嚴格一方で自由奔放な幼兒を束縛する保育は勿論考へ物であります。さりとて只幼兒の遊ぶが儘に放任するやうでも面白くありません。大體からいへば我國の保育は幼兒を小學校教育式の型に打ち込みすぎる傾向が強きますからモット〜自由保育を高潮せねばなりませんが、それにも程度がありませう。自由な幼兒の生活を適當に指導する所に保育の價値があり原始的な幼兒の生活を文化的に次第に統制する所に保育の必要があるのであります。

6、女兒が二人でテーブルの用意をいたします。テーブルクロスをかけて用意をした所で、幼兒は各自

牛乳を持つて来て簡単なランチが出来たのであります。幼児の出来ることは成るべく幼児にさせることは保育の本體が幼児の生活内容を豊富になす爲には成るべく幼児に動作させねばなりません。幼児のなすことありますから保母の手で行ふ程手際よく出来ないことは勿論であります。また多くの時間を要することも當然であります。が、幼児のなすべきことを保母が代理することは禁物であります。何事でも保母が行つて幼児にさせなければ何時までたつても幼児によく出来る筈がありません。練習の機會を興へずして一足飛にうまく出来るやうに望むことは不可能であります。この點を考へてテーブルの準備などを幼児にさせるのであります。我が國で御飯をこぼすから食はせてやるとかいろ／＼な世話をいたしますが、是等は成るべく幼児にさせる必要があり、幼稚園に於て食事の訓練を次第に行ふ必要があります。これは保育事項の一と見なす必要があります。

7、ランチの後保母と幼児とが保育室で圓陣をつくりました。そして中心に立てたボールを轉がしてダルマを倒すゲームを行つたのであります。ボールを轉がしてダルマに當ることは中々骨が折れますが、その間に幼児はいろいろの運動をなすのであります。次に床に足を伸して坐し足を曲げる練習をなし、色の當て方のゲームを行つてこの日の保育が終つたのであります。それから幼児各自が携帶品を持って保育室に歸り、仕度をして家庭へ歸りましたのが午後三時であります。アメリカには保育時間の長い幼稚園が段々多くなるやうであります。在來の幼稚園と托児所との折衷ともいふべきものであ

りませう。幼稚園の保育時間を延長することは大變によいことではあります。また托兒所が單なる托兒でなく、大に幼稚園保育の眞精神を加味することは我國の社會事業たる托兒所を改善する上に於て至極必要なことではあります。只時間が長いだけでは面白くありませんが幼兒を楽しく遊ばせてその間に幼兒の身體精神の發達を促進するやうな幼稚園生活を成るべく一日の中に延長することは至極大切なことではあります。幼稚園であるから保育時間が短いものと固定する必要はないと思ひます。

謹 告

此頃關根松藏と名のる者、小生の助手と自稱し小生の命令により地方幼稚園の視察中なりと稱して、各幼稚園にて園児に童話をなし、又保姆諸君との懇話會を希望することある由を傳聞いたしましたが、右は一切小生と關係なく、小生がそんな命令を出す筈もありません。念の爲御警戒を願ひ置きます。

若しそういふ者が參りましたら嚴しく御面責下さい。

倉 橋 憲
三

リズムの教育

小林宗作

近來リズムといふ言葉は、あたかも一種の流行語の如く、様々な人達から、様々に使用されてゐる、心理學者も、教育者も、藝術家も、將又經濟學者からも、といふ様に。

それはもとより甚だ結構な事である、思慮ある人々の言葉は、常に吾々を啓發して呉れるものであるから。

而し今此の稿を起すに當り、私の机上には、音樂の理論、作曲學、音樂教授法、體育舞踏、遊戲、美學、藝術學、舞踊、經濟學等、合計四十冊ばかりの書籍が積まれてゐる、私は此等の著書の中にあるリズムに關する項を悉く讀破して見たのであるが、リズムとは如何なるものか、明確なる理解を得るのに甚だ困難するのである。

「經濟學が勞働能率の研究の結果、リズムを問題とする様になつた」と云ふ様な程度でよいのなら、凡そ是位の概念的なものでも差支はないであらうが、藝術の研究に關するリズムの研究としては全く不充分であると思ふ。リズムに對する生得的本能が開拓して來た以外に、どれ程の功獻をなし得たであらう

か、私は疑問に思ふ。鐵道の線路工夫が、ツルッバシをふりながらふし面白く唄ふ。あのリズムや、お
かみさん達が綱の端を引つぱりながら唄ふ地ヅキ唄のリズム等は、所謂學者や藝術家達が氣の付かなか
つた以前からの存在物であつて、學者が指導したのでもなければ、藝術家が創作したものでもないので
ある。

概念的な説明としては、立派な言葉が二、三ないでもないが、それ等の説明は、吾々に宇宙にリズム
といふ物があるといふ事や、リズムが大切であるといふ様な事は明かして呉れるが、吾々のリズム感を
どれ程まで醒し、發達させたであらうか、又リズミカルな教育を豫想した或種の教育が果して豫期の効
果を見るであらうか、少しは反省して見る必要はないだらうか、美しい言葉のミ力や活字のミ力から覺
めなくてはならない、(近代人は言葉や活字に頼り過ぎて來た爲に感能が退歩した、吾々は自然が呼びか
けて來る事實に最正しく速かに感應する處の感能の復活を企てなくてはならない、自然是豫告なしに横
つらをはる、とは誠にうがち得たる戒告である)

リズムとは如何なるものか——或る音樂教授は「音樂から音を除いて残つたものがリズムである」と
語られた事があつた、全くそれに違ひない。音樂は音とリズムの結合であるから、ともなほさず、
 $1(\text{音}) + 1(\text{リズム}) = 2(\text{音樂})$ $2(\text{音樂}) - 1(\text{音}) = 1(\text{リズム})$ といふのと同じである。之位の説明が藝術を發達させ
る助となるであらうか、又リズム感を醒すであらうか。吾々が今知り度いのは、残つたリズムなる一は

$0.1 + 0.9 =$ なのか、 $0.2 \times 5 =$ なのか、 $0.2 + 0.6 + 0.2 =$ なのか、 これら様な種々相なの“おへい”なるものを見なければ少數の世界は全くわからない」と同様、リズムなるものを“分析して見なければ、其の相はわからなうのではあるまいか”、リズムと人生と云ふ著書は凡三百頁程も此問題を説いてゐながら、尚ほ且つリズムの一断面をも明かしてくれな。

マンリントン（米人）は或る著書の中で「且つて世界の多くの科學者が長い間、リズムの研究をしてゐるが、未だ完全に定義せるものは一人もなうのである」と述べてゐる。吾々が非常なる敬意を以つて頼りにしてゐる處の學者達にして未だ説明が出来ないのがあつた。此時、たゞ一ダルクローゼ氏の出現あり、こゝに一道の光明をもたらす事とはなつた。ダルクローゼの説明に従へば、從來多くの人達のリズムと稱してゐるものとリズムとミーティーとに分折してゐる。そしてミーティーはタイムの測定であり、リズムは平等と不平等の統一である。ミーティーは運動とアクセントの測定であり、リズムは運動とアクセントの對照であると、そして之を混同してゐるが故にリズム藝術が發達しなうのだと教へてゐる、進行曲に合せて歩行する場合、進行曲は様々なリズムの變化に富んだ音樂であつても、歩行者は悉く四分音符で平等に歩くであらう。又低學年の唱歌教授でよく行はれる様に手を打ちながら唱歌を唄はせる事があるが、八分音符であつても、或は十六分音符があつても又附點音であつても又休止符であつても、悉く四分音符で打つと云ふ様な事は、多くの教育者達が體験せらるゝ事と思ふ。此の歩行や、拍手の

作用はミーテーの現はれであつてリズムとは違ふのである。四分音符の並行（或は小節の變り目毎に現はるゝアクセント、即ち、四拍子に於ては四拍毎に、二拍子は二拍毎にと云ふ様にアクセントの並行）に依つて現はされた、ミーテーの中に於て八分音符や二分音符、十六分音符や附點音符、休止符等、様々な變化を起さしめ、流して行く處の或る力がリズムなのである。

ツルベの桶は、反対側に桶がある事に依つて、他方の桶の位置が安定であつたり、不安定であつたり（即ち運動）するのであつて、若し反対側に桶がなければ、他方の桶は直に奈落の底に落込んで再び浮ぶ望は絶対にないのである。證する處反対側の桶に依つて運動の可能があるのである、此の事實は對照の説明になるであらう。（小村）

石井漢氏は「リズムは物の運動の中に流れてゐる力の呼吸である」と教へて居られる。たいそう良い言葉だと思ふ、特に呼吸と云ふ言葉に共鳴を感じる。

吾々肉體の持つ肺臓の呼吸運動は無意識に働いてゐるが、而し吾々が意志に依つて支配しやうとすれば、或程度までは意志に従ふものである、吾々は早く或は遅く或は強く弱く深く淺くといふ様に意志の自由にする事が出来るものであつて、休止しやうと思へば、或時間停止する事さへも出来るのである。此處で大切な事は無意識的、生理的作用である處の呼吸は吾々のリズム感を醒しもせなければ發達もさせないものであつて、意志に依つて統御する事に依つてのみ、醒され發達されるものである、といふ事

である。(此呼吸の問題と石井氏の曰ふ力の呼吸との結合は後に述べることにする)

吾々日常の行爲は悉く魂の流れである。意志の表はれでない行爲といふものは無いのである。リヅミカルな行爲は、リヅミカルな魂、リヅミカルな意志無くして出来るものではないのである。從而リヅミカルな人間を豫想する處の教育は魂を醒し發達せしむる爲の方法を講ぜなければならぬ。

從來此の目的の爲に様々な方法が試みられてゐたのであるが、其の多くが目的に於ては完全であつても、方法に於て、又方法の構成に於て缺くる處なしとは曰へないのである。

リトミツクの創始者ダルクローヴ氏は此の目的の爲に未だ且つて試られた事のない特殊な訓練法を創案せられたのである。

リヅムは調和をもたらすものである。……リヅムは、あらゆる動的藝術の母であるとか、平等と不平等の統一であるとか、多様の統一とか、秩序ある變化とか、自由の中に抑制あり抑制の中に自由ありとか、様々の人達から様々に理論付られてゐるが之等の言葉は悉く調和といふ事に密接な關係を持つものである、否調和其物だとも云へる。

故に魂の流れがリヅミカルであるといふ事は即ち調和的人格者であると云ふ事が出来ると云ふ事が想像出来るのである。而も現代は特に調和の教育が必要な時代である、何故かといふに、現代の如く主智的教育の影響に深く浸潤せられた時代の人間は、傳説的、奇蹟的、豫言的、既成宗教を素直に信仰する

事は甚だ困難であらうと思はれる。道徳にしても舊道徳をそのまゝ現代の青年は受入れまいし、又現代の青年達の吸引力を有する有力なる新道徳が生れさうにも思はれない。詮ずる處宗教も、道徳も現代人を支配統御する處の力を失ふたものと考へる事が出来る。而も世界は年々歳々、制限なく膨大して行くのである。私はやがて来るべき時代の、不統一な不調和な亂世を豫感して身ぶるひをさへ感ずるのである。此の亂世に調和をもたらすものは何であらうか、此れは特に現代人に負はされた最大なる協同的課題であらう。

私はかく考へるが故に調和をもたらすべき教育は、現代教育の凡ての課程中甚だ重要な意義を持つものと考へるのである。

リズムの教育——は音樂を通して行ふを最も適當とする。音樂は吾々の心に最も感動を與へるものであるし、又音樂がリズムの多様性を最もよく表現してゐるからである。

又リズムの教育は身體運動を通して行ふを最も適當とする、吾々の身體は、身體自身がリズムの本義的要素を本能的に具有してゐるからである。即ち

(一) 心臓の規則らしい鼓動に依つてタイムの感念を與へられる、而しこの心臓の活動は吾々の意志とは關係なく活動してゐるものであるから、リズムの實行及知覺の爲には價値のない物である。

(二) 肺臓の呼吸運動はタイムを正しく分割してゐるからしてミ・タ・（測定）のモデルとすることが出來

る。呼吸筋肉は、吾々の意志に依つて支配する事が出来るから、此れをリズミカルに働かす事が出来る。

(三)歩行、規則正しい歩行は拍子の完全なるモデルとなす事が出来る、運動筋肉は意志的筋肉であつて、絶対に意志の支配を受けるものであるから、子供をリズムに導く最も自然な出發點は歩行にあると云ふべきである。而しそは單なる出發點に過ぎない、何故ならば専ら歩行の役目となす處の脚部は意志的筋肉の或一部分に過ぎないからである。リズム意識を醒し發達せしむる爲には、意志の支配に依つて運動する處の、凡ての筋肉の協同作用を必要とするが故にリズム感を創造する爲には、全身の訓練を必要とするのである。

リズムはダイナミックスと同様、全々運動に基くものである。故に運動せる身體を考へる事なしにリズムを考へる事は出來ない、然らば

運動とは如何なるものであらうか……即ち時間と空間と力との結合體である、といふ事が出来る。心中何れが一つ缺けても運動は成り立たなくなるのである。

運動に於ける時間と空間と筋肉エネルギー即ち力との相互關係は次の様である。

$$\text{動力} + \text{空間} = \text{時間}$$

$$\text{時間} + \text{動力} = \text{空間}$$

$$\text{空間} + \text{時間} = \text{動力}$$

即ち筋肉の力と一定の時間とが決定すれば其運動に要する時間がわかつることになる。筋肉の力と時間が決定すれば空間量がわかる、空間の量と時間の量とが決定すれば之に調和せんが爲には身體運動を統御する事が出來なければならぬ、筋肉を動かす動力の加へ方を自由に支配する事が出來なければならぬ。もしその統御を誤らばたちまち次の如き誤りを生ずる事になる。

例へば電車を動かすのに、甲の停車場から乙の停車場まで々々哩の間を々々時間に運動すると假定する、直に必要電力は計出される筈である。此場合其計出を誤る時は

一、電力が不足するとき、電車は豫定の時間に到着する事は出來ない。即ち延着する事になる。

二、電力が多過ぎる時は、電車は、早着になるか或は無停車通過といふ事になるであらう。

此の方則は身體運動の場合に於ても無視することは出來ない。のであるから、或運動を程よく調和する爲には、筋肉運動が弱かつたり、或は固過ぎたり、或は不注意であつたりしてはならない。石井漢氏の力の呼吸と云はるゝ處に照合して考へて見る事が出來やう。身體運動をリズミカルに正しく演行するためには豫備條件として動力、空間、時間に關する運動を完全に統御することを學ばねばならない、以上諸問題を略言すれば、

一、リズムは運動である。

二、リズムは本質的に身體的なものである。

三、凡ての運動が時間と空間と力を必要とする。

四、身體的手段の完成は知覺を明確にする。

五、時間に於ける運動の完成は音樂的リズム意識を確實にし。

六、空間に於ける運動の完成は、造型リズム意識を確實にする。

七、時間空間に於ける運動の完成は韻律運動（リトミック）に依つてのみ成し遂げられる。

音樂のリズム……音樂は音を通してのリズムの表現であるからして、吾々は音樂を聞くとき、音を通してリズムの諸相を感じる事が出来る、そればかりではない、音樂は實に前項の、時間と力と空間との相互關係を最も適當に吾々に示して呉れる。即ちピアノが一度ある樂曲を奏すれば、必ず或る速度を示す（モデラート、アンダンテ、アレグロ等の如く）又長短時間の様々なる組合せを示して呉れる。

又それと同時に或る力を示して呉れる、即ち、フォルテ、ピアノ、フォルテッシモ、ピアニッシモ、クレッセンド或はデクレッセンド等、又それと同時にアクセントの位置を示して呉れる。即ち二拍子であるか、三拍子、四拍子等、

即ち一度ピアノが鳴る時は同時に

一、時間に關する凡ての色合

二、力に關する凡ての色合

此の二つの問題を最も理想的に融合せる状能に於て吾々に示して呉れるものである。

そして是等の凡てのものは悉く最も正しく肉體運動に具體化する事が出来るものである。

即ち 瞬間十力＝空間 の法定式の示す原則に基いて肉體運動はピアノの音の強さと速度に支配され統御され、或は強く、或は弱く、或は早く、遅く、或は大きく、小さく等具體化されるものである。

造型リズム……前述の法則に従つて音樂のリズムの肉體的具體化は、必然的に造型リズムを生む物である。即ち音樂につれて肉體が或る運動を繼續して行く時には、必然的に肉體のボーッジの連續が起る。

此のボーッジの連鎖はとりもなほさず造型リズム意識の現れなのである。従つて此の造型力を醒し發達せしむる爲の特殊なる練習を必要とするのであるが、貞に限りがあるので此處では其の説明は省略する。

以上述べ來つた、運動に關する法則及造型リズムに關する法則とに従つて考察する時に

一、時間を平等に區切つて進行

二、力の平均した運動

三、言葉の意味を表はす運動

等は共にリズム感を醒し發達させる爲には多くの人達が豫期してゐる程の効果があるかどうか、一應反省を要する事と思ふ。

音樂のリズムの肉體的反應……此處に桶に盛られた一杯の水があると假定する、此の水は誰かど、ゆ

すぶると波を立てるであらう、大きくゆすぶると大波を、小さくそつとゆすぶると小波を。

音楽は吾々の耳を通じて神經中樞なる吾々の感情をゆすぶるのである、音楽の演奏者が或感激を以つて演奏すれば其の感激は音楽となり耳を通して吾々の感情を直接ゆすぶるものである。此のゆすぶられたる感情は直ちに肉體に反応せなければならぬ。此の肉體的反應力を獲得せんが爲には、吾々の肉體は様々な速度と強さに應じて振動する處の肉體リズム感を創造せなければならぬ。結論すれば

一、感性を醒す事……或る音楽を聴いた場合聽者が演奏者の感激に共鳴し共感するためには感性の發達を要するものである。

二、媒質としての身體諸機關、演奏せる音楽が耳を通して神經中樞に、神經中樞から運動神經を通して各種の運動筋肉に傳達される迄の過程を媒質として完全ならしむること。

三、肉體的リズム感の創造。

以上の三項目の完成を目的として特殊なる訓練を行はなければならない。(未完)

附記——此論文は次號に於て完結する豫定であるが此の論文の具體化されたものが即ちリトミックであつて其特殊なる訓練法、即ち韻律運動法

◇音楽のリズム(メロディー)ハーモニーを肉體運動に具體化す法

◇運動のリズム(和力)を音楽に具體化す法

調

◇造型力 造型リズム意識 を醒す法

◇ダルクローヴ式、讀譜練習法及基練習法等の講習が開かれる事になつてゐる。

此の論文に或る興味を持たるゝ方々の御研究を希望する、山田耕作先生は此リトミックの何であるかを知らるゝ事は諸君を全く豫想もされなかつた美と眞の世界に導き、諸君をして、眞の音樂の心、舞踊の心を最も明瞭に知るの絶大なる歡喜を得るの因となるであらうと宣言して居られる。

ダルクローヴ式リトミック

リズム運動法
ビアンノ即奏法

講習會

期日

八月一日ヨリ七日マデ 午前八時ヨリ午後四時マデ

場所 成城小學校

東京府北多摩郡千歳村（新宿ヨリ二十分）
小田原急行線（新宿驛八番線）成城學園前下車

會費

金五圓

申込

至急、住所氏名職名記入會費を添へ申込む事

寄宿

最家庭的成城學園寄宿舎を開放す、二食付壹圓參拾錢希望者は前以申込む事

主催 成城幼稚園内 韻律教育研究會

倉橋先生の

『保母と詩感の教養』を読んで

宇都野研

倉橋先生

あなたの『保母と詩感の教養』を面白く拜見しました。『玉の杯底なきが如し』といふ言葉を美化なすつたあなたのウキツトにはさすがの兼好法師も舌を捲かうと思ひます。

幼兒の心の特質は粗野ではあるが、原始的の粗野である。その裏面には一種の纖細と、こまやかさとがある、それこそは詩感だといふ意味のあ言葉をももろいと思ひます。

詩感はいひ換へると驚異感です。物におどろき得る心といへませう。勿論、利害關係からの驚きではありません。さういふ日常生活から来る利害得損の念一切をのぞき去つた驚きです。今、バッと眼を開いて、世界を見直した心持です。いはゆる概念的反省を拂拭し去つた心持です。さうした心は何れの幼兒にも宿つてゐる。

保母にも詩感をとの御注文は、つまりこの驚異感をもちつゝけよとのことで、新らしく或物を所有せ

よといふのではなく、以前持つてゐたものを取返せといふことに過ぎない。

驚異感を取返す、即ち詩感をもたうとするのは、心の純粹さを失つてゐない者にとつては何でもないことです。たゞそれを失つた者にとつては永久に失はれた心の故郷です。

私ども、拙いながら歌をよんではゐる者は、幼年時代を大抵、詩歌の雰囲氣のうちに送りました。そして大成した歌人の凡ては、いづれも少年時代に歌を詠み得た者ばかりです。これらの事實は詩感を植ゑつける、或は、より正しくは、詩感を失はないやうにするには、幼少な時代の理解ある教養が最も大切だと思はれます。この點からも、あなたのあの一文をありがたく思つてゐます。

私の書かうと思つたのはこれだけです。しかし、私も幼兒相手のお醫者で、皆様とまんざら縁のないこともないやうです。私が幼兒に對してどんな感を發してゐるか、そしてそれをどんなに表現してゐるかを、序ながら見て頂かうと思ふ。作のたわいのないのは豫め御勘辨を願つておきます。

○

剃らでしも八束白^{やつか}舞生^おひしめよ^{まさぐ}弄りものによきをと子のいふ

胡麻鹽の毒なるものを八束舞白くあれとやまさぐらんとや

訥辯で、奇抜なことをいふ私の三男です。何處で見て來たのか、ある日、一緒に晚餐の卓を圍んでゐると、しげ／＼私の顔を覗きこんで

『お父さんも膝まであるやうな白髪を生やさないか。いやつてみたいんだ!』

卓をかこんだ一同が思はずふき出した。鬢髪に白いものをまじへたその父も微苦笑を禁じ得なかつた。心のうちでは——之からだと思つてゐるのになあ——といふ一味の淋しさもあつた。

○

わがまへに立ちて物言ふをさな子やひたぶるにしも目をみはりをり

何をかをいひつつ眸をかゞやかすをさな子の顔たゞに見てをり

をさな子の言のこゝろを解きがたみ大きな頭かしらわがなでやりつ

をさな子は言としがたき心もてりすがしき眸まなこをたゞにかゞやかす

やはり、三男のよませた一連ですが、數年前のものです。言語發生の極めて遅い子でした。そして輕度のどもろでした。私には何よりもその清々しい白眼しらめと輝かしい瞳ひとみとが可愛かつた。いつたい、人間の心が純粹である間はいつも白眼が清く光澤を帶びてゐる。この子の眼がまさしくさうだ。ある時、この清らかな眼の訥辯家は私の前に一つ立つて何をか云はうとあせつてゐたが、訥々として言語とならない。そしてその眼は異常に輝いてゐた。『眼は靈魂の窓だ』といふ言葉がこの場合にふさはしかつた。私はそのかゞやかしい眼から彼の表現し得ざるある尊い「驚異感」を直覺した。

○

日曜はまるく業ヨウを休めと云ふ此の子よやんちやと今も思へるを
のび／＼と一日もあり得ぬ窮屈さをその父の上に感じをるらし
窮屈さも本性となれば苦にならぬををきな心に移して思ふな

之は最近のものですが、やはり三男がよませました。醫者の悲哀といつたやうのもの、さうしたもの
を幼年の子に知られてゐやうとは思ひませんでした。また知られたくもなかつたことです。それを眞つ
正面から、思ひもけず切り出されるとたぢ／＼とせざるを得ません。幼児の直觀は鋭い。（をはり）

宇都野研氏は醫學博士として御専門の小兒醫界の權威であられる
と共に、また歌道の大家なることは皆様御存じていらつしやいませ
う。

(編 輯 者)

保育座談會（第一回）

六月七日午後二時から、東京女子高等師範學校附屬幼稚園で保育座談會を開きました。これからも度々催したいと話しあひました。當日の出席者、會橋教授、堀主事、及川、新庄、神原、徳久、白根、澤の各保姆。

會橋 サア、これから始めますとかなんとか、

挨拶したらいいでせう。（一同笑）

神原 ではこれから、座談會を始めます。

會橋 題は、

新庄 幼兒の仕事の際に於ける保姆の態度並に、もし保姆の力を加ふべき場合如何程位の程度に力を添へていゝでせうか。自由畫、塗繪、切紙等の場合で。それから分團作業の最少限度の人數について等をうかゞひ度いと思ひます。

及川 その中に自由畫の指導といふ事も含まれて居ると思ひますね。皆が疑問があるのでですからまづ自由畫からにしませう。

新庄 ふだん、何となくしてはゐますが、このまゝ放つておいては何だか物足りない所があります。

會橋 幼稚園の自由畫の中には色々な場合がある。

新庄 今では子供が勝手にして居りますが、何れまでに指導していくのか：

堀 現れからいふと二つある。黒板の繪と帳面のと。

會橋 まづ、自由畫の名でやつてゐる今の様子を話さうぢやありませんか。

新庄 及川さん、どうしていらつしやるの。

倉橋 何でも描きなさいといふのですか。

及川 私は自由畫のやらせ方を形式的と内容的に分けてあります。形式的には別に一定の形をとらないでやらせますが内容についてはある時は幼兒の自由に、ある時には私の方できめてやらせます。

例へば今日はけしをあかきなさいとか電車をあかきなさいとかいふ様にします。かいてゐる途中では保母の方では口出しをしないでこれを見てゐて、その結果を見て足らぬのはもつとかゝせ又いつもかきすぎる子供には適當の時これであやめなさいととめる事もあります。男の子は材料も豊富で面白い畫も出来ますが女の子はだまつてあれば花だのち娘さんばかりかいて居りますから材料についてもさしづする時もあつてよいと思ひます。

倉橋 單純に、本當のあそびとして描いてる時、そ

の儘打つちやらかしてあく場合もある。しかし、その間に、一齊にやるのはないが——指導と云へば大げさだが——保母がついてゐるらしくする時は違ふね。

新庄 小さい組と大きい組とでは違ひますわ。小さい組では繪の時間を與へられてかく時が多いのですけど、大きい組は遊びとして、何時でも描きたがります。

及川 先生は仕事の積りでも子供は遊びにして居りますね。

倉橋 問題を制限しましよう。幼稚園では必ず子供の繪を描く時に、保母が手を出す可きだと誤解されると困るから。表現のはたらきに外から手を出すと危険だから、これはこの問題から除いて、保母が側について居る時の繪を問題としませう。事實大人がついて居るのだからね。

及川 そこが皆さんのきく度いところでせう。それ

は口でいふ代りに描いてゐる時だから。

新庄 勝手にかいてゐる時は、自由生活ですね。この節はそれが毎日なんです。その間に伸びるような気がします。

堀 問題を解釋してみれば、昔は、幼稚園の繪は学校の圖畫の時間の様に、いち／＼直し、成績をとつたものだ。それが自由畫論、自由保育論によつて何にも手出しをしなくなつたのでそれはあまり極端の話です。何かを子供の繪にグラスして行く、問題はそこですね。

堀 自由畫の意味が鮮明りしないが、氣が向いた時に書く。觀念を自由にするなら幼稚園の生活に多い。それを保姆は打ち捨てゝおいていいだらうか。ヒントを與へる態度を要求する必要はないだらうか。大體時間を豫定して、かく材料は言はない場合と、及川さんの話の様に、材料を大體ケシ、バナ、等ときめてあつて、觀念を

表現する形式が自由である。こゝらで自由畫といふ

云つてよからうと思ふ。

新庄 先生の繪をまねさせるもの、實物の印象を寫生することも自由畫といふか、今の問題は……

堀 それを明らかにするには、小學校の自由畫といふものは……

堀 小學校のは範畫をまねするか或は用器畫に對する自在畫のことだ。

新庄 昔は大體に於て手本を與へた、それは表現の型を與へることになる。

新庄 手本は絶対に使つてはいけないのですね。

堀 使つてはいけない。

及川 形式を自由といふことにしておきます。模倣の結果大人の形式をまねする場合があります。

堀 問題を擴げすぎるかも知れぬが、手本を示す時——子供は表現の仕方を全然知らぬとして——それで手本を示すといふこともあるが、も一

つ解釋すれば、いぶんな所で繪を見て、實物より先にみて、表現形式を知らず／＼の間に學ぶ。その形式が必ずしも藝術、技巧として一番よく

はない時もあらうし、子供自身の本當の發生的表現法と違ふ場合もありませう。茶碗を線畫で表現するか全體面としてするか何うか分りませぬが、この頃の繪では面の表現が主だが。我國では線畫でエライ繪があるし、子供にみせるのは簡単な線畫である。

子供の繪にかへらせるために手本をみせる場合もあります。

及川繪雑誌にも線畫はよくありますし、年よりに數はつてゐる線畫をかく子供もあります。そんな子供は幼稚園に入るといきなり、富士、日の出などをかきます。

金橋 それを本當の表現にかへしてやる……

五川 それはそれとして、形式が大分出來てゐるか

らそんな子供には實物を尙更見せて自分のものとしてそのものゝ感じがあらはされる様に直してやり度い。

金橋 表現形式は一つの習性の様になるから、茶碗の線畫の手本を見ると、茶碗を線畫で表現するのみならず、凡べてを線畫的に、實物を線畫的に見てしまふ。それをもとに返すには手本が要る。

新庄 その手本はむづかしうございますね。

金橋 或る所で、外國ですが、いはゆる繪手本は興へないが、實物を少し直した立體の手本を與へて居ります。とにかく、本當の意味で手本が與へられれば子供の畫がよくなる。自由畫論者は今まで悪い手本を與へて來たために絶對に手本を排するといふ様になつたのです。今まで表現の仕方を間違へてゐるので、茶碗を線畫でない描き方で與へる。子供が線畫にしてゐるのを、

線畫ではないでせうと誤まつてゐる經驗を直してやる意味で先生が描いてやる手本は必要です。

新庄 この頃の自由畫は物足りないような氣がします。

堀 その意味では、ある手本は時々有効であらうとして、手本の問題は打ち切りませう。そこで、其の問題を、勝手に描いてゐる時でも、誘導で始まつてゐる時でも、自由畫として、その途中で、結果にでも、全然打つちやらかすか。何

うするかに問題を極限しませう。話がもとに返りますが、時には、あんな描き方をしてゐる、あそこで困つてると見えて、自己経験をさせるために、あへて知らん顔してゐる時もあるが、これは除いてあきませう。

堀 兎に角捨ててもひいてはいけない。

新庄 子供がかいた繪をずらりと並べておいて子供同仕で觀させるのは如何ですか。

堀 その場合——子供の觀念が著しく誤つてゐて表現がよく出來ないと、觀念は正しいのだが表現の仕方が分らず、技能がすゝんでゐないから結果が面白くないものがある。少くとも觀のみならず、途中に一寸黒板にかけてやつたのも手本。

及川 私のやり方を云つて見ませうか。十五人づゝぐらむ一緒に畫をかくせてゐるときに横からそれをぢつと見てゐてかきすぎの幼兒には「此處でよしておきませう」とか、發表の尠ない子には「この花をも少し大きくなさい」とかもう二つこの花をかいて見ませう」とか。大體二通りにかきすぎ、かき足りないのに、注意してをります。

新庄 それぢや……

新庄 お手本の所以は、筆をとる前に出してやる時

念の誤つてゐる時はその都度指導していくと思

ふ。また表現形式が分らなくつて困つてゐるのを見たならば、途中でも、後にも、或はその次にでも、一寸ヒントを與へるがよい。幾ら自由画でも與へて然る可きものだ。

倉橋 同感だ。あまり自由画の名にこだはり、遠慮し過ぎてはなるまい。但し直す時に、大人の表現形式に合はぬからこうなさい。お手本と違ふからかくなさいといふのはよくない。どこまでも子供の表現としてやらなければいけない。

堀 これまでの自由論者は、何でも一切幼兒や児童の自由に放任するやうである。しかし幼兒はまだ表現の形式を知つてゐるわけではなく、繪心は、描かうといふ考へは、表はす腕がないために出ないつていふのが餘程あらう。その時大人の表現形式を傳受しなくともいい。しかし友達のでも、先生のでも、見せてもらつてかけると

いふものにはそれが指導となる。
倉橋 子供の繪が「何でもいいのだ」は極端なあやまちで、そこに子供の繪として發生して行く路を知る人、或は、藝術的に廣い理解のある人は、そやはなれない筈だ。

堀 子供の繪は矢張、しばしく子供にかくチャンスを與へるとその間に表現形式を工夫し、他人の繪を注意して不知々々の間にみてとる。幼稚園の自由画は其處に價値があるいだと思ふ。私の知つてる男が、子供のとき講談本の繪を、よくラクガキしてゐたが、高等師範を途中退學して繪かきになつた。誰に習つたといふのでなく澤山かいてゐるうちに大人の型を眞似てゐる間に、創作が出来る。

新庄 幼稚園でみんながよいと思はれる子供の畫をとつておいたら何うですか。

倉橋 それはいゝでせう。しかしその場合に立ち入

つて心配すれば、評價なされる時に、吾々がそれを手本にしてゐるとなれば實は手本主義だ。

新庄 始終出しておきやしませぬ、時々出して、何となく。

倉橋 子供の繪で、自分が表現するとすればとても出来ない意外の表現がある、自分の表現と違ふから不安を感じるけれども、これが偉いのだと思ふ。吾々が、新派の人の繪を見るとそれを感じますね。これが本當かと分らないなりに思ふことがありますね。

新庄 まあ子供の繪は少し分へて來たようですか

ら。

倉橋 理解ある大人がみていいと思ふならばいい繪ですね。

新庄 左うやつていゝを集めておいて見せたらするど、銘々の自由の發表を妨げやしませんか。

堀 先に出してこれを描くのだといへば。

新庄 上手な子供のを見て隣の子がかいてゐる場合がよくあります。

及川 えゝ。

倉橋 繪の様な藝術には子供の中にもいろいろあるので、一般的の場合の様に、子供は力が弱いから物が持てなくて困つてゐるんだといふ風に類型的論法は使へない。或子供は手本を興へても獨立性が動いて来るし、或る子供は、他には獨立性がないではないが、畫に於ては手本に頼り過ぎて發展して來ぬ。その時に成績本位ならば手本に頼つて行けば成績をあげられるが、併しお弱いなりに發展させて行くには、どうさせないで氣長に指導して行かなくちやならない。

堀 大體、自由畫で成るべく自由に描かせるといつても子供によつても手加減を加へて行かないやならない。手本を見てゐる。うちでは大人

の影響を受けてゐる。子供獨自は渺い。

倉橋 頗る獨自がない。

堀 子供に應じて適當な指導を加へる。

倉橋 所謂、自由を尊重する名に於て子供が何んな

書き方をしようと放任するのはいけない。

堀 そゝだ。

倉橋 私はむしろ、極端にいへば藝術は、知能と違

ふから知能のよう個人性よりも普遍性が勝つてゐるものと違ふから、其處に於る大人は自分の流義でやるより仕方がありませんね、子供の表現や心理學的研究をもとしつゝ、自分の流儀やるより仕様がない。繪を習ふとすれば何かの流派に入るより仕様がない位に考へる。

堀 此處に於て良い先生を持つ子は幸だ。

一同 ちやく。

倉橋 親は日蓮宗信仰だが子供の宗教心に既成宗教

に型づけるのを遠慮して子供には日蓮宗を示さ

ないようになんてふことは事實に於て有り得ない。矢張り先生のいゝと思ふに基いてやつてゆかなければ先生の仕事が出來ない。ところで、實際論としては繪畫の何ういふ點をより多く注意すべきか。見逃す可きか。

堀 畫面と釣合がとれて現はすのに餘程高尚で、更に美的となるのは一層進んでゐる。組立の事實や、釣合を考へる場合、一つ一つの線や形に着眼する場合もあらう、子供の發達から云ふと何方から行くだらうか。

倉橋 圖畫は保育事項の目的中には何が主になつてゐるかを見る方がこの問題にらくに近づける。

子供の繪にだつて色んなのがあるでせう。「幼稚園期にては物を個々としてのみ取扱ふのでプロボーションは七歳にならぬと扱へぬ」とでも斷言して呉れる心理學があるといふね。

及川 ラクですね。

堀 事實そんな風に考へてる人があるね。チャン

と法則が出来てゐるもの、やうに考へる人が多くて困るね。

倉橋 心理學としての研究の途中にあるものを教育

實際に持つて來る一般的誤謬だね。

堀 子供は大人より大局から見て行く所がある。

手がなく足が無くとも人だし。

倉橋 或る子供は純然たる畫の形よりもその情緒で

描いてゐる。

堀 気分でかいてるつていふんだね。

倉橋 限定して何れとは云へぬが、むしろ、幼稚園

では個々の忠實な寫生型よりも、全體の方の傾きがあると云ひ得ないかしら。

新庄 その方が多うござりますよ、大きい所に寫生

にまるりますと中に花一つだけかく……。

倉橋 描かない場面が非常に多くて、花一つ描

て「これはち庭よ」だからね。

及川 説明が多くて畫が簡単。

新庄 そんな子供には、何うすることも出來なくつて。

倉橋 人間に種類がある様にいろいろあるでせうが

電車をしきりにかくのは何うですか。個に即してゐるようですね。

堀 パーツと花一へだけかいてあるのは全體に目をつけたのか、描くことが出来ないのか。

新庄 電車、汽車ときたら大人以上ですわ。

及川 それ許りかくと何うすればいいのかと云ふ事になります。

堀 自由畫でも題目なり、發表の材料をきめることに由つて多方面を練習させることを考へて差し支えない。

及川 同じもの許りかきつゞける子供があります

の。

倉橋 それは勝手畫だね。

堀 そりや或る場合に讀められたからもあるよ。

倉橋 吾々の専門のやうにね。

新庄 男の子にはずる分ありますよ。勝手畫と云つ

てこれはどんなものでせう。自分が描いてゐる

線路と一緒に自分も走つていゝ氣である子供が

あります。

倉橋 電車そのものをかくのではなくて、自分がそ

の電車に乗つてゐる積りの場合は大きな問題で
す。その子供のは作品としては扱へません。

堀 それはそれで良かないか。畫だけで表現出來

なくて體全體を打ち込んでる。

新庄 描かれた繪を繪として見ればメチャくなん

ですけどそれをかいだ子自身にはチャンと進んで行かれるレールです。

堀 子供の畫が立體を表はせないから、その補助として體を使ひ繪を合せて立體表現をやつてる
る。繪の實用化だ。

倉橋 子供のかく時は大人の實用的にかいてゐるの

と違ひ、自分のためにかいてゐるのは事實だ。

新庄 それはもう。それで酔つてるんです。

倉橋 それは最も新派な畫だ、

その生活は尊い。

新庄 そんな場合電車が多い、船は妙いようです、

倉橋 相撲人形を取りくませて居る場合、人形をあ
どらせてはゐるがその實。自分が力を入れて四肢
をふんでゐると同じだ。人形がなければそれ
を畫でやる丈の事だ。

徳久 小さい組の子供で入園して一ヶ月以上もたち

ますが線だけです。

堀 線だけで満足して居る時期がある。分らない

が尋ねると汽車だつて云ふ。

倉橋 厳しく云へば、視覺との違ひを比較する能力
が出來てゐない。

吾々が繪を描く時には、ヘンだつて感じが何

時も残つてゐる、觀念許り進んでゐるから。

堀 子供に美醜の判断が伴つて判断してゐる時があるだらうか。

倉橋 其んな要素が働いてゐないとは云へないけれども、大人にはそれが主なものだが、それに比べれば、微かなものだらうね。

堀 とすれば、大人の美醜の判断で等級づけるのは無理だと思ふ。

倉橋 こゝらで一つ實際に自由畫帳を見てみようぢやありませんか。

(各組から自由畫帳を一二冊づゝ持ち来る)

及川 保母は下手だからかけないと云はないで「こ

れが虎だ虎だ」つて調子に書いたらいい」と思ふ

わ。

(一同帳面を見てゐる。うちでけい古して來る繪、確に手本によつてゐる繪など拾ひ出される。)

倉橋 うまいもんだね。この目は應擧の目だ。體やその他の線にはその子のうまさがある。が併しこの目は手本のうまさだ。

倉橋 形式派があつませんか。此方にこれを書いた

からあちらへもとかき並べる子供は?

及川 観てても抽象の方が勝つてしまひます。

倉橋 此れ丈は心理學的の方が勝つてゐる。

及川 観てると勝手にかいてゐる子には、それは斯うなつてゐると、私が描いてやります。

堀 表現の先入主だと思ふ。大人がはだから花は斯うくと描いてやつたからだ。

倉橋 手本主義の弊だね。

及川 観てるても描けないためでせうね。

堀 手が頭から出でてゐる。肩から出でてゐる様にかけないからだね。

(ねずみをくわへた猫の繪が引き出される。

牛乳の瓶とバケツが添へられてある。插繪(一)

新庄 この子はそれ丈ぢやなくて、他の場合にだつて、それ位に表現して居ります。

先日は猫の、ピューッと尻尾を立て、伸びをしたのに

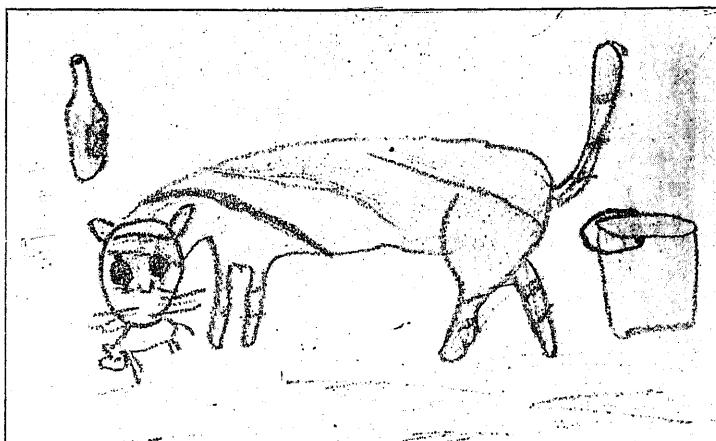
七輪、しぶ圓扇を添へたのを描きました。自分のものになつてゐるのです。

堀 東京の子供にそんな材料が日頃みられるものか。手本だよ。

(新庄保姆しょげる。)

堀 大人の繪を活用してうまく現はすんだからいゝんだよ。傍からとり入れて、斯んなに組立てるんだからエ

ライ



(一)

四二

新庄 それでいいんですか。

(で、やつと元氣恢復の態。)

及川 自分のものになつてゐますね。

金橋 子供のことだから理屈は云へないが、成る程といふ所をつかんでゐますよ。

新庄 ふだんに、いろんな場合に相當して描けるのですもの。黒板に描く時でも、その作品を後に下つて眺めながら描きます。他の子供と違ひますわ。手本があつたと云はれて、がつかりさせられましたけど。

金橋 だから陪審法による必要

があるね。眞似だて死んだ型をまねると、成る程と感銘してやつてゐることある。

新庄 現はし方がいゝでせう。

倉橋 いや、線がいゝ。これはこの子のものだ。

新庄 えゝ、ずる分いゝと思ふのですが感心しちゃいけませんか。

堀 いゝが、だけど盡く創作だと思つちやいけない。

倉橋 子供のオリジナリティから出た繪でないとして、全體としてうまいぢやないですか。

堀 全體としての繪心が出来てゐる。範畫からぢやない自由畫だ。

新庄 先日は、私がオルガンを彈き、多勢でうたつてゐる所をちゃんと黒板に描きました。

及川 そう云ふ子供にはそんな事を澤山させたらいいですね。

堀 自由畫の展覽會つて云ふのを見に行くと、先

生が直して幾度も描き直させた様なのがある。直接の機械的模倣でなければ自由畫と云つてゐる。

倉橋 全くへんなものがあるね。

(同じ子供の帳面を見てゆくうちに托鉢僧の繪あり、同様の畫題が三四枚、日を逐ふて完成してゐる。挿繪二)

倉橋 この子供は他人の繪を見る時、實物以上に注意してゐるんだ。

倉橋 井戸ぢやなくて——中から湧き出る方よりも、吸ひ込みが豊富にあるのだね。吾々では、いくら托鉢僧を観てゐたつて斯んなわらぢの紐のかけ方までには、氣が注ぎませんよ。

新庄 何か見たんでせうね。

倉橋 實物か?

堀 繪だよ、實物ぢやこれだけに描けやしない。在るものを見ることはない。

來ない。

新庄 だけど、この子供は一般的にうまいでせう？

及川 實物をみたつてかけますね。

新庄 上野に行つて來たと云つて先日描きました西

新庄 それぢや、やり方を變へなくちやなりません
か。

堀 其んな必要はない。

るるね。

新庄 畫才があります

のね——何でも見

れば直ぐ其處から

何かを捕へて行く

——心配ですね。

及川 この粹登りにと

りつけた鯉幟りは

他のに比べて下手

ですわ。斯んな手

本はないからでせ

新庄 さうね、懸軸

か、何かにね。いつか尋ねて見ますわ。

う。

堀 彌一式になつたのや、タニ坊式になつた繪が

新庄 この子の繪のうまむあるとあるとすれば、

よくあるが、この子供だつて或る形式に入つて

いやになります。



(二)

倉橋 いや、手本から手本らしく描いてゐるのでは

ない。それをいぢくつてゐるのでもない。本當の
画才ですよ。だが、これ許りをあんまり讚め
ないで、他の方面を指導して行けばよい。

堀 (ホラ、此の

ひなげしの寫生
は、斯んなに簡

單だ。これは手

本のない繪だ。

(椅子の背を前に
その上に坐つた
子供の繪を見つ

けて、挿繪(三)

倉橋 あ、これは子

供の繪だ。托鉢と比べると違ふね。この子供の

鼻は實に苦しんでゐますよ。この子供の繪とし

ては托鉢よりずつといふ。苦しんでゐる丈よい。

新庄 ホカの子供と比べて其の子が……



(三)

倉橋 そのためにその
畫のねうちを下げ
はしない。

堀 それを仰つて戴
きたかつたので
す。

新庄 その子は下手だ
と云ふのではない

其の子は下手だ
いへのです。けれども大人を感服させる式のう

まざの抜けてゐるのがまづいとは云えぬ。

堀 そりや上手だよ。

四六

新庄 その子ばかりではない、他の

多くの子供もその同じ路を

通りて來た子があると思ひます。けれども其處まで行けなかつた所をこの子供は行きついたとすれば。

倉橋 極端に云へば、きょううさのために斯んなに迄出來た。

及川 臨畫のうまい人があつて寫生の出來ぬ人があります。

新庄 でもこれは臨畫ではない。

及川 目の前において描いたのでないとしても頭に形が残つてゐるのを逐ふたとしたら。

倉橋 此れは臨畫系だね。



(四)

新庄 あゝあ、托鉢僧なんかを描いたばかりに、損しましたね。

倉橋 吾々でも、このテクニックにはチャームされつまう。うまいですね。

新庄 先生が感心なすつたからまあいゝとしませう。

倉橋 このうまさは、模倣性だけでは出来るものではない。氣分の捕へ方はいゝ。但し、但し、テクニックがあると本當の發達を妨げることがあるかも知れぬ。

堀 そこで自由畫論者の八釜 しく述べ所だ。

倉橋 何日か、子供の繪をもつ

と澤山列べて批評しあつてみましようよ。

新庄 今度は托鉢なんか描かないように（と念ずる態）（一同笑）

倉橋 美術學校に入れるとすれば、ある成績は獲るが、何處まで伸びるか先が測られないといふ風には驚かれない。

新庄 つまりさようさのために小さく出來上るので

すね。

倉橋 この子供は臨畫的なものを見なかつたらよかつた。

（讀める、下げる、惜しむ、この子供の繪を中にして、堂々めぐりに一同どつと笑ひ出す。）
新庄 それぢやね、子供の畫は、今まで見たものを除けといて描けつてことになりますのね。

堀 見たのを出すのと、組立てて出すのとは違ふ。

新庄 本當の、その子供の畫とは、

倉橋 觀念を子供の表現で描いたものさ、その表現

の組合せがなか／出来ない。

新庄 托鉢許り描いてれば、斯んなに、うまいとは思はなかつたのですけれども、見るものを直ぐ上手に書きますもの。

堀 大家の畫を練習するのは、部分を練習して居つて、これを自分の繪に組立てる。ダヴィンチを模寫するのとは違ふ。

倉橋 ダヴィンチの繪を自分の繪にとつて來るにしても、これが、ダヴィンチの鼻、あれがダヴィンチの腕だと分るようぢやね。先日美術學校出の人達の會合で出た話ですが、近頃の子供の繪雑誌は斯う云ふ方面から見て實に有害だと云ふ説が出ました。子供の畫が、繪雑誌の繪に左右されて來るのですね。昔のちばあさんは斯うく描くもんだと教へたものだ。吾々は幸にしてぶさようだつたからあやまちが無かつた。

新庄 この子供の畫は全體から考へて危險性が多い

せせうか。

倉橋 さあ、危険性かどうかは別として、何しろ、うまいだけに指導法が六ツかしい。一體指導法が

六ツかしいなどいふ事はうまい者に向つて云ふ

事で、下手なのや、描けないのは伸ばしてやればいいがこういふうまいのは他方に行きかゝつてゐるのをいへ道に連れ歸るのだから六ツかしい

新庄 丁度いゝ時期にうかゞつてよろしうございました。

倉橋 そんな子が小學校で、類型畫圖百種とでもい

ふよつなものを取つておく畫の先生に指導されたら、村長をおどろかす繪が描けるでせうが、まづい僕達にはこの心配はない。

新庄 まづい方がいゝことになりますね。

倉橋 そもそも断じていへない。

堀 この子供は個性が強くない。

倉橋 順應型の子供だ。

新庄 苦しめたらこの繪はよくなるのでせうね。

倉橋 苦行すれば。エライ先生がついてゐて、これもおまへのものぢやない。これもこれもとね。

うんとたゝかれるとな。

新庄 この子供の事はもうよしときませう。

倉橋 既成品としてはいゝ繪です。たゞ、生活としての眞實要素は、と見た時に薄弱なんですね。

新庄 も一度云はせていただきますわ。他に、幼稚園の子供に、この子供と同じ様に、手本のある

子供が澤山あります。

倉橋 そりや澤山どころか、大體が、ですよ。

堀 いや、幼稚園も、小學校も、大體これでやつてるんでせう。

倉橋 吾々は見にくくこれをやつて來たので、人が問題にもしてくれなかつたのです。マルを二つかいて犬、犬は斯く描くものと教つた。

(以下五十二頁につづく)

お話の調べか話方の研究か（お話漫筆四）

長 尾 豊

困る事ふたつ

世の多くのお話口演家が、いかにして巧みに話すべきか、どうしたら聴衆に感動を與へられるかといふ、話法話術の研究にうき身を窶してゐるのを見て、一概に笑ふことは出來ない。専門的な口演家が其の技を磨き、術に勵むのは、まことに結構な事だからである。けれども此の傾向がお話の方面へ入つて來ると、困る事がふたつ許りある。

ひとつはさういふ専門家風のお話だけがお話であつて、外のたとへば教室でのお話とか、家庭でのお話とかいふものが考へられないやうに成り、又すべてが専門家風の話方の影響を蒙ることであ

る。影響を蒙るのは差支ないとしても、それのみが話方でありと思ひ、それでなければ、さうしなければお話ではないと間違へるやうになると、きつと「お話の出來ない人」が出て來るだらうと思はれる。教室でのお話とか、家庭でのお話とかいふものは、調べさせへすれば誰にでも出来るもので、専門的な特別の技術を要するものではないと思ふ。モウひとつ困るとは専門的な口演家を見ならつて、其の模倣者追隨者達が、争へて話法話術の一端に許り嗜りつく結果は、話材に就いての考察があつて成り、お話そのものを調べるといふ事が閑却されてしまふ。お話口演家の多くは、「創作」と稱

して自分の考へた話材を口演する。これは創作童話といふものとは全く別なもので、もつと範囲の廣い、或材料を得て来てそれを話のやうにして口演するととある。自己の創意も何にもないものもあれば、又時としてはち話に成つてゐないやうなものもある。それでも話して見て多少面白ければ、つまり聞手が笑つたり、拍手を送つたりなどすれば、「流石は實演家だけあつて話の組立がうまい。」などと褒める人もある。が、そんなものに話の組立などはいくら探しても見附からないのである。

むづかしい創作

かういふものが「ち話」として通用することは天下に悪例をのこし、惡模範を示すことで、甚だ厄介な話である。創作といふことは「つくる」ことである。人は一篇の話でもさう容易に創作する事は出來ない。先づ大抵は昔からある型に依つて、舊い材料を多少新らしくし、現代の物を取り入れた

り、又は自分流にいくらか改めて話直すことに過ぎない。日の下に新らしきものなしとか言ふが、大體ち話の型といふものはきまつてゐて、それが幾つかあるだけである。細かく分ければ百幾つに成るが大括みに區別すれば、先づ二三十、大抵のち話は十ぐらゐの型でちやんと分類されてしまふ。其の型の幾分變つたものや、ふたつ以上結び附いたものや、いろ／＼あつて數多く見えるが、ち話の數が多いのに比してち話の型の方は、實はそんなにたくさんはないのである。そこで少なくとも舊い型に依らず、昔からあるち話の形を離れた、新型をつくり出すといふ事はむづかしい。決して生易しい仕事ではない。拵へた人が創作だと言つてもそれはよく見ると何所か昔の型に依つたもので、全然新らしい創作ではない。勿論「話」の態をしてゐないものは此限りでないから、所謂創作童話とか藝術童話とかいふ、短篇小説だか散文詩だ

か分らないやうな、「話」でないものはこれには當
嵌らない。「話」でないものを書いて創作だと言ふ
なら、それは通るだらうが、話を書いてこれは創作
だと言つても先づ大抵は昔の型に依つた、悪く言
へば舊套を脱してゐないものである場合が多い。

創作童話の方は先づ「話」でないのだから好い
としても、實演童話の方ではすでに「話」といふ位
だから、話の態を成してゐなければ困るわけであ
る。けれどもこれも「話」としては形態も構造もし
つかりしてゐないもので、只「話らしい事件の疎
漫な連續を身振や聲色で話らしく聞かせるに過
ぎない。

お話を調べると、調べないと

お話を創作といふものがむづかしいもので、相

當に力量を要する仕事であるとすると、お話を聞
かせなければならぬ人は、忽ち材料に困る。力
量があつてもなくつても創作らしいことのいける

人はとにかく、さうでない人は、止むを得ず好い
加減に片附けてしまふらしい。ところが材料に困
つて好い加減に話した癖のついた人は、何を話さ
せても其の好い加減で片附けてしまふ。つまりほ
んたうにお話が出来ないのである。

昔からある名高いお話、好いお話、面白いお話
を話すといふのは、お話本を前へ伏せて置いて、
諳記して又あけて読み、クチャ／＼と讀んでは又
諳誦するといふやうなやり方では、先づ覺束な
い。お話を分解して見て、急所々々を突き止めて、
別段骨を折つて覚えるともなく、前後の關係が辿
れるやうに成り、其の一一遍分解したものを再構成
して話す、其所に創作的な、自分の話方が出来る
わけである。

お話を分解して、再構成して聞かせること
は、お話本の丸諳記でも、一字一句間違はずに昔
からある物語を聞手に傳へることでもない。これ

を通つてはじめて獨創的な話方が可能であり、時

として其の志さへあればお話創作の方にまで進め

るのに、はじめから好いお話を採らず、採つても

分解もせず、再構成もせず、苦しんで丸譜記を試

みたり、あるひは好い加減に押片附けて、材料の

ない時には創作とも何とも名附けやうのない一時

のがれをやる人が、ほんたうにち話が出来なくな

るといふのは、ちょっと聞くと不思議のやうにも

思はれるが、これは不思議でも何でもない。つま

り前者はお話を調べ、後者はお話を調べない、と

いふだけである。

お話を調べだけが大切で、話方の研究は疎漏で

も好いのかと言ふ人があるかも知れないが、話方

は其のお話を離れてないわけである。又話方を調

べて、お話を通することは出来ないが、お話を調

べる事から、それを話す仕方がいくらでも考へら
れると思ふ。

(五〇頁よりつづく)

堀 僕は二本棒のヒバシからだつたよ。

新庄 私共、幼稚園の教生の時に、やつぱりそんな

でした。その當時の保育案が残つてをりますわ。

金橋 私に描ける繪が四つだけある。その他は何れも描けないけれども、これ丈はうまい。母に教つて、小さい頃描いたその繪です。

(先生、即席揮毫をなさる。あり合はせの紙

の裏に金のエバーリシャーブが一氣に描き出し

たものは。人物二種、横向きに立つ人と碁盤

を囲む二人、何れも當代の子供繪には見よう

にも見られぬ文人畫。その次が、蟹。蘭一葉

だけ折れて破調の味。それから之れも唐畫風

の籠に盛つた果物。)

サア、もうこの邊で閉會にしませう。

時に、六時。

ユーリカリ樹の實に就て

眞規子

ある梅雨中の頃でした。大阪より程遠からぬ阪神沿線なる蘆屋の里の閑静な別邸に友達を訪ひました。廣々とした庭前に足の踏み入る餘地なき迄にユーリカリ樹の實が落ちて居りましたので之れを少々戴きたいと申ました處澤山に有つて毎日々々捨場所に困つて居るのでお持ち歸り下されば誠に仕合との挨拶、夫れでは明日大阪へ自動車の便があるから持たせて上げますとの事で誠に嬉しく存じました。私の此實を戴きます目的は、幼兒が木の實を拾ひます事を好みます處より、競争的に拾はす遊戯を作くらうと存じまして拙きながら一つ作りました處幼兒より案外歓迎せられました。其

遊び方を述べますれば、種々な木の實、木の芽、木の葉、松の實（松かさ）栗、銀杏等遊戯室に多量に散布して幼兒を二組に別ち歌を謡はせまして歌の終迄之れを拾はせます。其唱歌は木の實拾ひ遊戯

一 木の實が澤山落ちてある あそこに一つ二つ
三つ此處にも四つ五つ六つ七つ八つ九つ十二十

二 皆さん一緒に拾ひませう拾つた木の實は右左
二つの籠に分け入れてどちらが重いかかけませ

う

右左二つの籠に拾ひ入れた重量を歌の終りし時天秤にかけ重き方を勝と致します。此拾ひ遊びの材

料に此ユーカリの實が至極よく、踏みましても他の實の様に割れませず誠によき材料と存じまして頂戴致しましたので御座います。翌日蘆屋の里よりは凡一斗餘りも自動車で持つて来て下さいました。又之れを拾ひ遊びの他に玩弄させました處種々と幼兒巧なる工夫をして興味深く遊びました事に文々大に學びました。

今一つ岸和田舊城内鳩巣幼稚園に有るユーカリ樹は實に立派な大木で此園主佐藤ます子先生の御誕生紀念に父君が蒔かれたもので實に美事に成育して年々澤山に實ります。此種は最初有名なる京都同志社の創立者新島襄先生米國より持ち歸られたものを佐藤氏の父君がます子女史の誕生に際し蒔かれたもので、實に由緒深きもので御座います。此ユーカリの實は私在職中毎年約を違へず、佐藤先生は此實の尤も盛に落下する梅雨期に拾ひ集められて必ず持參せられ、園児の爲め實に感謝する

次第で御座いました。私引退後は絶えて無音に打ち過ぎて居りましたが五月の二十五日神戸幼稚園長望月氏の渡米されますに付き、送別會を催すとの案内を得て出席致しました時に佐藤先生に久しき振りで御面會し嬉しく存じました。例のユーカリの實の話が出まして、昨今澤山に落ちて居る事を承り、在職中の御厚意を思ひ出し感謝の念禁ずる能はざりし。其際申兼ますがユーカリの實少々でよろしく東京迄御送り下され度御願ひ致しました處、御快諾下され澤山に小包便で送つて下さいました。之れを或幼稚園或會へ持參致しました處何れも歓迎して下さいました。此ユーカリ樹は關東には餘り見受けませんが、本年四月花の頃鎌倉瑞泉寺に参りました處、此寺院に此樹の大木が有りまして關東では稀に見るもので御座いました。此寺院は關東十刹の第二で後醍醐天皇の嘉曆二年（紀元一）に建て開山は夢窓國師中興の開基は足利基

氏である。此ユーカリの種を蒔さしは嘉永六年米國の提督ペルリの浦賀に來航せる際此種を得たるもの由當時の住職は吉田松陰氏の伯父なりしに

より松陰氏も屢々此寺に來られしと。最近此ユーカリ樹の下に松陰先生の紀念碑建設の計畫有る由

私が此寺に參りました時はユーカリの實がそろそろと落ちて居りましたので少々拾つて歸りました。昨今は定めて澤山落ちて居る事でせう。

此ユーカリ樹は關東地方には餘り見受けぬ様で御座いますが、關西地方殊に阪神地方では隨分諸處に繁茂して居りまして五六日の頃には一番豊富に落實して居ります。此程御茶の水幼稚園堀主事先生の御話に米國では此實を糸に繋ぎ磨いて美しき首飾りにして居るとの御話を承り之れも幼兒の努力により一層興味ある愉快の事と存じました。

以上此ユーカリ樹の有る土地には昨今實の豊富なる期節で御座いますので申上げましたが幾分

の御参考となりましたら仕合で御座います。
左にユーカリの實を以て幼兒の玩具化せしものを記す。

一、狗 樂

形體のコマに似たるを以て
中央に穴をあけ竹を通して

二、喇 叭

竹の柄を付
實の中を穿ち竹をさして柄とす

三、柄 抄

實の中心を錐にて穴をあけ
糸又は針金又は細竹を通して

四、繫ぎ方

實の中心を錐にて穴をあけ
糸又は針金又は細竹を通して

五、まま事遊びの客器

實の蓋を人形遊
糸の節に用ふ

六、冠及帽子

實の蓋を人形遊
糸の節に用ふ

七、實の蓋を以て

客器の模様裝飾に用ふ

以 上

セルリの栽培

(五)

大 岩 金

播種床の土壤消毒

は其の目的の爲に造られた特別の釜で蒸すのであります。

消毒といふ字は少し當らぬかも知れませんがまあ極く廣い意味の消毒といふ位にお考へ願ひます。

播種床で最も厄介なのは雑草の發芽でありますから床の土壤中には雑草の種子を無い様にせねばなりません。それには土壤中から雑草の種子を撲出するといふ事は到底考へられない事でありますから小規模の栽培に於きましては蒸籠或はその様なもの及普通御飯を煮る釜、竈で蒸氣立たせる様に出来れば好しいのでありますが、大規模の場合

土壤を蒸す程度は大體蒸籠内の土壤の最上部に中位の大きさの馬鈴薯を入れておきまして是がころ／＼蒸せたといふ位で好しい事になつて居ります。併し此の操作は一回より二回或は三回と回數を増す程完全が期される譯であります。即ち菌類の胞子の殺菌とか、種々の病原菌の消毒とか、害蟲の成蟲或は卵の撲滅等の目的にもなるので、單に雑草の種子のみを目的とするのでないからであります。

露地床

はセルリ栽培として最も普通に行はれる方法でありまして、種子を何の覆物もない所謂露地の床に播下するのであります。その方法は、土質、氣候等に依りまして異なりますが、原則としましては秋季に耕しましてよく腐熟した堆肥（一エーカーに對し一五トンの割、但しこの場合の堆肥は雑草の種子に對する除去方法は講ぜざるもの）と骨粉（一エーカーに一トン）とを施用しまして春季作業が出来る様にならまして表土を短冊形の床に造るのであります。床の幅は六一一七フィート位にし床と床との間は動ける丈の餘地をもいて床面より四一一六インチ位低く通路を造ります。此の道は又排水の用をも兼ねますし、種々の作業に便する事は無論であります。

前記の床を造る時に基肥としまして木灰（一エ

ーカーに對して一〇〇〇ボンド）と硫酸アンモニヤを少し施します。肥料は床面より四インチ位の深さで作用する様に施用するのであります。

施肥が終りましたならば床面を平に均しまして其の日の中か、遅くも次の日位には播種せねばなりません。播種後は覆土して床面を平にする事は無論であります、若し條播にする様な場合はレキ等をもつて溝を造りまして播種します。覆土した後はローラー又は板片等で軽く鎮壓しておくのであります。

場合に依りまして撒播した後を攪拌しておく事があります（大規模の場合）が土地が乾燥する地方では此の方法は不利であります。

鎮壓は土壤の毛細管現象を盛にし種子に水分を充分給しますが攪拌すると毛細管現象を断ちますからであります。併し又種子を發芽させて播種する様な場合がありますが此の時は撒播しまして

灌水するか、降雨を待つて覆土の用をさせる事が

あります。此の場合は熟練を要するものであります。

けれども發育は大變早い譯であります。播

種後は土地の状況に依つて覆物をせねばならぬものでありますが此の場合は極く軽いものを用ひます。

露地床の取扱の注意

灌水せねばなりません。原則としまして床の表面が乾き始めた傾向を見ました時行はねばなりません。床は宜く乾きすぎるものでありますが過湿せん。床は降雨の爲に根際の土壤を取り去られて倒れる様な事がありますから、此の際にも前記の綿布様の覆物を必要とする時があります。

セルリの生育に最も注意を要する時期であります。併し前記の温床利用の場合の如き困難はありませんが過濕は種々の病菌の繁殖を催し苗を病弱

ならしめますから氣をつけねばなりません。

苗床の保護

苗床には寒風が當る事は忌むべき事でありますから北方には風除を造つておきます。尙場合に依りましては東及西にも南に次第に低くした風除を造る事もあります。次に種子が發芽致しましたならば木綿布様のもので日除をしてやる事があります。是は強烈な日光の場合特に必要であります。

又苗床が軽い土壤であつた様な時は發芽したての苗は降雨の爲に根際の土壤を取り去られて倒れる様な事がありますから、此の際にも前記の綿布様の覆物を必要とする時があります。

移植

若いセルリは移植するに最も有利の時代であります。併し前記の温床利用の場合の如き困難はありませんが過濕は種々の病菌の繁殖を催し苗を病弱

操作であります。細根のあるといふ事は生育を盛ならしめ得る優良な苗といふ事になるのであります。

移植する時は直根を切取りますので細根が多く生ずるのであります。細根が多く生じますと本烟に植ゑ出すに適する譯でありますから、苗は取扱が出来得る様になるや否や移植を行ふのであります。即ち本葉が三枚も出れば始めの移植が行はれます。

此の移植の効能に就きましては一度必ず實地試験を行ひになる事を希望致します。即ち移植しないものと如何に其の根の張り方に相違があるかが判然するでありませう。難難汝を玉にすといふ教訓が當つてゐるかどうかは知りませんが、セルリとしては移植は一時相當の難難をしませう。併し移植するには相當の手間を要します。米國では百本に就て一ドルといふ大金を見てあくさうであります。

ますから營利的大規模の栽培には場合に依つては不適當であります。が御家庭等でお作りになる時は必要な事であります。

移植の代り

移植と同様の効果を得て勞賃を安くしてしませやうといふ様な事が大栽培地には講究されて居ります。即ち林業家等がよく行ひます断根法であります。即ちセルリの生えて居りますまで土中へ刀物を通じて根を切るといふ仕掛けなのであります。深さは大體二インチ位であらまして、行ふ時期は本烟に植ゑ出す一〇日——二週間位前に行つて主根から細根の發生を見る譯であります。此の方法を行つた後は灌水をして枯れるのを防がねばなりません。

播種の適期

望む時期に收穫する事の出來る時期で最も健康な生育がとげられる時に播種するのであります。

苗床には苗が床にある期間内は充分肥料分がなければなりませんが、徒長或は過繁茂といふ事は苗の生育をして休止せしめる事が起りますから採らないところであります。ではありますが寒地に於て屋内温室或は温床を利用して育苗した場合は最も此の點を考慮せねばなりません。

そこで先づ寒地にちきますセルリの一般栽培を申しますと三月上旬の内に屋内に播下します、この期を遅れると不利の點がありますから特に注意を要します。そこで冷床或は畑等に移植します。時期は四月上旬でありますから本畑には五月下旬迄に行ふのであります。この方法でゆきますと八月中旬頃の需要に應ぜられる譯な

であります。

次に最も普通に行はれます時期を申します。即

童話二題

水谷年惠

ピイピイ、ポコポン、ドンドロン。

と面白さうな囁の音が聞えて來ました。爺さんは、「はてな、何だらう。」

正直爺さんが山へ柴刈りに行きました。柴を刈つてゐる中に眠くなつたので、草の上へころりと横になつて、ぐうぐうと寝てしまひました。

大分たつてから眼を覺すと、驚きました。もう夜中になつて圓いお月様が、晝間のやうにあかるく照らしていました。

「こりや大變、大變、婆さんが心配してゐるだらう。」

ピイピイ、ポコポン、ドンドロン。

赤い帽子、白い帽子、緑の帽子、青い服、黄色い服、水色の服、色々の色の帽子、色々の色の着物を着て、小人は面白く踊つて居ります。
何處からか、

小人の踊り

ピイピイ、ポコポン、ドンドロン。

ピイピイ、ポコポン、ドンドロン。

緒になつて、

爺さんよう來た、さあ踊ろ、

今夜はよい晩、好きな晩。

爺さんよう來た、さあ踊ろ、

今夜はよい晩、好きな晩。

小人達は首を振つたり、手を拍つたり、飛んだり
跳ねたり、それは／＼面白い踊りを踊つて居ります。

正直爺さんはとう／＼たまらなくなつて、踊り

ながら小人の圓陣の中へはいりました。小人達は、

「おや。」

「おや、おや。」

と驚きましたが、正直爺さんがあまり面白さうに

踊るので、皆喜んで前よりも、もつと／＼愉快に
踊りました。そして皆で、

爺さんよう來た、さあ踊ろ、

今夜はよい晩、好きな晩。

爺さんよう來た、さあ踊ろ、

今夜はよい晩、好きな晩。

と歌ひました。正直爺さんは大變喜んで自分も一

「あれ、」

「もう朝だ。」

と言つて、踊るのを止めてしまひました。そして
行列を作つて、ぞろ／＼と谷間の方へ歩いて行きました。正直爺さんも小人達の行列の後について

谷間の方へ歩いて行きました。

谷間に一花、白い百合の花が咲いて居りました。
小人はその白い百合の花の中へ、ぞろ／＼と這入つて行つてしまひました。正直爺さんは、

「はて、不思議なことがあればあるものだ。」

「面白いぞ。」

と言つて、驚いて其の花を眺めて居りましたが、
ぽんと膝を打つて、

「さうだ、此の花を婆さんへ土産に持つて歸らう」

と言つて、その百合の花を折採りました。

夜があけました。正直爺さんは百合の花を一花

お土産にして、うちへ歸りました。

其の晩のことです。婆さんが手桶の中へ挿して

あいた百合の花の中から、ゆうべの小人が、ぞろ
／＼と出て来て、爺さんの家の庭で圓陣を作つ
て、又踊りを踊り出しました。今夜もいゝお月夜
で、まるで畫面のやうにあかるく見えました。樂
隊は笛や太鼓を鳴らして、

ピイピイ、ボコボン、ドンドロン。

ピイピイ、ボコボン、ドンドロン。

と囃したてました。村の人達は、皆眼を覺して、
「やあ。」

と言つて、正直爺さんのうちの山庭へ集つて來ま
した。そして小人達と一緒にになって、皆で歌を歌
ひながら踊りました。

正直爺さんよい爺さん、

お山の小人とさあ踊る。

正直爺さんよい爺さん、

お山の小人とさあ踊る。

正直爺さんは嬉しくて、嬉しくてたまりません。
自分も小人や村の人達と一緒にになって、

正直爺さんよい爺さん、

お山の小人とさあ踊る。

正直爺さんよい爺さん、

お山の小人とさあ踊る。

と歌ひながら踊りました。

その中に鶏が、コケコツコウと鳴きました。す
ると、小人達は、

「あれ、」

「もう朝だ。」

と言つて、踊るのを止めて、行列を作つて、ぞろくと手桶に挿してある白い百合の花の中へ這入つてしまひました。村の人々は正直爺さんに向つて、

「お爺さん、有難う。お蔭で面白う御座いました」

「お爺さん、こんな愉快なことはありませんでしたよ。どうも有難う。どうも有難う。」

と言つて、あい／＼の家へ歸りました。

隣のうそつき爺さんは、自分も白い百合の花が欲しくなつて、正直爺さんに、「その白い百合の花は何處に咲いてゐたのだね、」

とたづねました。

「此の花かね、これはいつも柴刈りに行く山の谷間に咲いてゐたのだよ。」

と正直爺さんが教へました。其處でうそつき爺さ

んは急いで山の谷間へ行つて見ました。よい鹽梅に白い百合の花が一花咲いて居たので、折つて歸りました。そして、村中駆廻つて、

「あ／＼、みんな、今夜俺のうちへお出で、小人の踊が俺のうちの庭であるんだよ。」

と叫んで歩きました。村の人々は喜んで、

「又今夜小人の踊りがあるので、うまいね、嬉しいね、みんなで行かうよ。みんなで踊らうよ」と言つて、夜になるのを待つて居りました。

夜になりました。村の人々は、みんなうそつき爺さんの家の庭へ集りました。今夜は空が曇つてゐて、お月様のお顔が見えません。うそつき爺さんが、

お山の小人出て來い出て來い、

みんなが來たから、はよ出ろ、はよ出ろ、と歌つて催促しました。けれども小人は一人も出て来ません。いくら待つても小人が出て來ないの

で、うそつき爺さんは怒つて、

くそ百合、馬鹿百合、へつぽこ百合、

熊蜂、小蜂に蟻されて泣いてる。

となりました。すると、百合の花から、

ブーン

と元氣の好い音がして、澤山の熊蜂が飛出しました。
た。さあ大變、

ブーン

と飛出した熊蜂が村の人々の顔や手をチクリ／＼

と蟻しました。うそつき爺さんの顔や手は、特別
に大きな熊蜂が、チクリ／＼と蟻しました。村の
人々は、

「わあっ、逃げろ／＼」

と言つて、逃げていつてしまひました。

それからうそつき爺さんは、もううそをつきま
せんでした。

あはて者の三太郎

あはて者の三太郎が、夕方歩いて來ました。す

ると川がありました。川岸に石地藏が立つてゐて、

その傍で、一人の子供が、

「あーん、あーん。」

と泣いてゐました。あはて者の三太郎は、

「あーん、なぜ泣く。」

と言つて、石地藏の頭を撫でてやりました。子供は
「川があつて、かへれないよう。」

と言ひました。あはて者の三太郎は、

「よし、渡してやらう。負んぶしな。」

と言つて、あはて／＼石地藏を負んぶして、じやぶ
／＼と川を渡りかけました。うしろで、

「あーん、あーん。」

と前よりも大きな聲で、子供が泣きだしました。

三太郎は、脊中の石地藏に、

「泣くんぢやないよ、泣くんぢやないよ。」

と言つて、川の真中まで行くと、石ころにつまづいて、ぢやぼんと轉んでしまひました。轉んだ拍

子に、脊中の石地蔵が水の中へあつこつてしまひました。あはて者の三太郎は、

「大變だ、大變だ。」

と言つて、水の中をひつかき廻しましたが、子供

は居りません。三太郎は眞青になつて、

「助けてくれい、助けてくれい。」

と大聲をあげて叫びました。

三太郎の聲を聞きつけた人が、駆けだして來ました。

「どうした、どうした。」

「た、大變だ、大變だ。」

「何が大變だ。」

「子供が川の中へあつこつた。」

「何處へ、何處へ。」

「こ、この邊だ、この邊だ。」
其の時、向ふの岸で、

「あーん、あーん。」

と子供の泣くのが聞えました。するとあはて者の三太郎は、

「助かつた、助かつた、子供はもう岸へあがつた」と言ひました。

倉橋教授は、今夏、左記に講演旅行に赴かれます。

七月

二十一日——二十三日

八月

二十九日——三十日

名古屋市
静岡縣伊東

四日——六日

八日——九日

十四日——十五日

二十日——二十一日

二十七日——二十九日

九月

七日——八日

山口縣虹ヶ浦
神戶市
銚子
松本市
桐生市

松江市

兎 ラ チ オ

葛原歎歌
室崎琴月曲

1. ウ サギヨ ナガミミ ピントタ テ
2. うさぎは むかしの むかしから
ナゼアンラナヲ ハラナイノ
アシラナ なんか はらないで

ゼイー オウ エイー ケイー ビー スイー ケイ
つきの せかいの ほーそー を

ミンナ キコエテ ステキダロ
うさぎ ラヂオで きいてます

ラヂオラ カーッテ アグヨウー カ
うさぎラヂオは 一いかがです

兎 ラ チ オ

土 川 五 郎 振

一、うさぎよ……両手を胸に掌を下にして手先を前に下げ一回跳ぶ。

ながみみ……兩肱を曲げ前膊を兩側に立て掌を耳に向く。

ビンとたて……両手を高く頭上に伸ばす(肩の巾に)

なぜあん……左足を左へ一步體重を托し上體を左に傾け両手を左下方へ顔も左手に向く。

てなを……右食指を出し右手を大きく頭上に圓形を描きつゝ右下方に送る 顔は右手先に従ふ。

はらない……左手を大きく右手即右下方に頭上を通じて送る 此の時體重は右足に移り左踵をあげ

上體は右に傾く 顔も右下に向けたるまゝにて左手を右下に送る。

櫻……左食指を大きく圓を描きつゝ左下に送る 上體は次第に左に傾き顔も左下を向く。

ジエオー……兩足を揃へ顔を斜右上に向け右手先を口の前に持ち来る(手先を丸くまとめて)

エイケイ……顔を斜左上に向け左手先を口の前に持ち来る。

ピースイ……右肩を下げ頭をやゝ右前に傾けた掌を右耳の後ろに持來す。

ケー……左肩を下げ頭をやゝ左前に傾け左掌を左耳の後ろに聞く如くす。

みんな……顔を斜左上に向け兩手を顔より離して前に掌を前に向け立てゝ兩食指と兩拇指とにて丸く喇叭の口を作る。

きこえて……兩手を前方(やゝ)高く左右に開く(掌はやゝ上を向く)

すてきだ……斜右前に丸く喇叭の口を描く。

ろ……兩手を向ふへ且左右に開く。

ラヂオを……兩手を兩側より體前に掌を上に向けてすくひ上ぐる如くす。

かつて……右足に體重を托し左足を軽く左へ伸ばす時掌を上に向けたる兩手を左方へ送る。

あげよう……左足をまとめ兩手を體前にて前の如くすくひあぐる如くす。

か……右足右へ軽く出すとき兩手を右方へ送る。

二、うさぎはむかしの……右肱と左手頸を曲げ手の甲を左耳の處に近くおきて其の右手を斜右前に高く出し掌は上に向く。

むかしから……左肱と左手頸を曲げ手の甲を左耳の處に近づけ更に其左手を斜左前に高く出し掌は上に向く。

あんてななんか……兩手食指を出し他指を握り體前下方にまとめ、それを上にあげて左右に開き一

つの圓を描きて兩側へ下ろしつゝかゞみて兩手を胸前に組む。

はない……兩掌を開き左右外方に向けて開き又胸にまとめる。

で……再び左右に開く。

つきの世界の……立ちつゝ兩手を兩側より頭上へく丸あぐ。

ほうそう……左手を下ろし右食指にて線を描きつゝ右下に流し斜右下方にて止む　此の時右肩を下げ顔は右下に向く。

を……左肱をまげて左食指を高く頭上にあげ更に左下に流す、此の時左肩を下げ顔を左下に向く。

うさぎらぢをできいてます……兩肱を曲げ兩掌を左右の耳の後ろにして右へ七歩廻轉して正面を向く。

うさぎ……左足を斜左前に踏み出し兩肱を曲げ兩掌を耳の方に向けて前膊を立つ。

らぢおは……兩手を斜左前へ高く突き出す。

いかがて……右足を斜右前に踏み出し兩肱を曲げて前の如くす。

す……兩手を斜右前に高く突き出す。

金魚のひるね



金魚のひるね

大阪市金蘭會高女教官

振附 久保富次郎

この唱歌遊技を教へるにはまづ

甲、豫備教授として次の教授をしてほしい。

(イ)金魚の御馳走は何であるか。

(ロ)幼兒の構成的想像の満足として

赤いちべゝのこと……

晝寝のことなどの取扱に注意すること

(ハ)両手を側舉して動して金魚の泳ぐ状の動作の練習

(コ)両手を側舉して動しながら左に一廻する練習

(ハ)両手を前からあげて側下する練習

乙、解説

一、隊形は隨意

第一圖



第二圖



第三圖



第四圖



第五圖



第六圖



第七圖



第八圖



第九圖



あ、……第一圖の如く左手を肘から上にまげ右手を肩平に横にあげると共に、右足を後にあげて左足にてかるくとんで調子をとる、

(金魚の泳ぐさま)

かい、……第二圖の如く前の反対の動作をする
べ、きた、「あ、かい」と同じ

可愛い、……第三圖の如く両手胸にする

金魚、……第四圖の如く、兩人差指にて右下を指す。

あめ、を、……第五圖の如く左足をひいて蹲き右

手、次に左手にて目をこする。
さませば、「あめ、を」と同じ

ごちさう、……立つて第六圖の如く左掌を上向にして胸前にあげ、その上に右手をつまみてのせる

するぞ、……第七圖の如く前の姿勢より右手を前下になげて手を開く(麩を投げる状)

二、赤い金魚は、「一」の「赤いべ、きた」の動作をしながら第八圖の如く右に一廻して正面に復する。

あぶくを、……口の前にて拍手一つ

ひとつ、……右食指を立て、胸前にだす

ひるね、……第九圖の如く左足をひきて蹲きてう

とく、とねるさま。

うとく、ゆめから、……第九圖の如き姿勢を保つ
さめた、……両手を前から上にあげて兩横に下し
て立つ。

一、注意、(1)動作は技巧なく、極めて自然に。

(2)運動を大きく、元氣よく。

雜錄

講師及題目

奈良女子高等師範學校教授 森川 正雄

一、幼稚園教育理論(六時間)

同 本庄 精次

幼稚園保姆の講習會

一、個性調査法(六時間)

奈良女子高等師範學校教諭 幾尾 純

一、東京女子高等師範學校の部
期間 七月二十六日より三十一日まで

講師及題目

東京女子高等師範學校教授 倉橋 惣三

一、幼稚園生活の理論的考察(五時間)

堀 七藏 同

一、圖畫及手工(八時間)

奈良女子高等師範學校保姆兼教諭 會澤タガエ

講習員定員 約五十名 橫井 曹一

一、幼稚園生活指導の實際(八時間)

東京女子高等師範學校保姆 及川 ふみ

一、幼稚園作業方面的實際(九時間)
何れも出願期限は七月十七日、地方長官宛申出
之事。

講習員定員 約百五十名

○第七回大分縣保育會總會

二、奈良女子高等師範學校の部

期間 七月二十九日より八月四日まで

大分縣保育會總會は去る六月八、九兩日大分市
大分幼稚園に於て開催、出席會員大野學務部長(會

長)、渡邊教育課長(副會長)始め園長二三名保母七

十名、來賓に今村視學官、佐藤縣視學、越川、長

崎兩師範校長、鈴木主事、高山市長、大島助役、東

收入役、幸市視學、小原城南女學校長、市内各小

學校長、市丸市會議員外數名を迎へ午前九時立花

副會長の開會の辭並に會務會計報告あり天門成蹊

幼稚園長全國教育大會の報告引續き保育功績者の

表彰式舉行す。協議後會員の研究發表及遊戲の相

互研究を試み午後六時より大分市主催の招待會に

出席せり。

翌九日午前八時より大分愛憐兩園參觀後園長保
姆各々部會を開き更に十時半より協議研究發表あ
りて午後一時閉會、それより白雉城趾并に水源地

の見學、風連鐘乳洞の觀光をなせり。

功績者表彰 藤田壽美(佐伯幼稚園)

十年勤續同 北山ハツ(白杵)アンネット、ギス

ト(愛憐)
べき事項如何

五年皆勤同 立花一雄(大分) 清末シズ(楓江)

研究發表

一、幼兒の取扱に關して

杵築幼稚園 外永 タガ

二、宗教教育による保育に就て

愛憐幼稚園 甲斐 キミ

三、注意を要すべき幼兒の行動

大分幼稚園 古野 マツエ

協議題主なる題もの如し

一、現在の思想に鑑み幼兒教育上特に留意すべき

點如何

二、縣下幼稚園教育の伸展策如何

三、幼稚園時代の教育に於て主力を注ぐべき要點

如何

四、園児の文字に對する興味を起したる時の取扱

方法如何

五、園醫令の發布に從ひ衛生的施設上急施を要す

談話題一六あるも省略。

稟定規文注告

一、幼稚園及び小學校、家庭、育児、看護等に關する論說
調査研究等の寄稿を歡迎いたします。

一、寄稿は一行二十四字詰に記して下さい。但改行は一字
下げる事と、また句讀點は一字あけること。

一、寄稿並に本誌の編輯に關する通信、紹介及び寄贈の新
刊書、交換雑誌、入會手續、更に
本誌の購讀及び廣告に關する通信並に照會等一切
左記編輯兼發行所宛に願ひます。

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

日本幼稚園協会

一、本誌御注文の方は凡て前金（郵稅共）で願ひます。（郵
券代用の場合には總て一割増）

一、御送金の場合はなるべく振替貯金で振替口座東京一七
二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
二、送金の節には第何卷第何月號より第何月號迄と明記せ
られたし。

一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特
に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雑誌の帶封
に『前金切』の印章を押捺いたしますから其節は早速御
送金を願ひます。

一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひ
ます。

定期	一ヶ月分一冊	金參拾五錢	送料壹錢
半ヶ月分六冊	金貳圓拾錢	送料共	（外國行郵稅は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい）
一ヶ月年拾貳冊	金四圓貳拾錢	送料共	

昭和四年七月十二日印刷納本
昭和四年七月十五日發行

幼兒の教育 第二十九卷第七號

不許複製 許轉禁
編輯兼 堀 七 藏
發行者 猪木 卓 二
東京市麹町區飯田町二丁目五十番地

印刷所 京華社印刷所

印刷者 猪木 卓 二

東京市麹町區飯田町二丁目五十番地

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

發行所 日本幼稚園協会
振替口座東京一七二六六番

特等面一頁 金參拾圓 二等面一頁 金貳拾圓

一等面一頁 金貳拾五圓 二頁以下御斷

神田區南甲賀町八品田奥松に御申込下さい。

告廣

保育夏期講習

一、日 時 昭和四年八月一日より八月六日まで六日間
一、會場 東京市小石川區大塚仲町 小石川隣保館
一、會費 壱人金貳圓五拾錢(會員に限り金貳圓のこと)
一、講師及科目
本會文部參與會長 安藤正純氏
幼兒期の心理と宗教々育
東京女高師教授 關 寛之氏
幼兒保育の原理
東洋大學教授 今橋惣三氏
保育園の衛生と保健
東京市兒童係長 士廣潤興氏
お話の選方と話方
東洋幼稚園長 岸邊福雄氏
自然物利用の手技實習
東京音樂學校教授 梁田 貞氏
唱歌の教授法と新教材
昭和保育養成所長 土川 五郎氏
幼兒の表情遊戲の練習
内務省社會局嘱託 小澤 一氏
乳幼兒の保護
東京府社會事業主事 朝原梅一氏
幼稚園と保育園の經營
中野高等女學校長 富田駿純氏
佛教と修養
本會副會長 富田駿純氏
一、主催 佛教保育協會
一、申込期日 七月二十五日迄
一、申込所 東京市小石川區大塚坂下町一七 音羽幼稚園
一、後援 東京市小石川隣保館
所長

佛 教 保 育 協 會

(86) 六四九番 電話 大塚

廣島高等師範學校教授

文學博士 久保良英先生新著

菊判全一冊紙數六百頁
定價金六圓 送料金廿七錢

最 新 刊

實驗的心理學精義

行動篇 復雜なる

三版 簡單なる行動篇

菊判全一冊紙數八百頁
定價金六圓 送料金廿七錢

讀め輓近
異常に進歩
せる我心理
學界を最も
有意義的に
具體化せる
一大金字塔

上先士陽新著 文野生

兒童心理學精義

十增訂 版

上野先生文學生士陽新著
久保良英先生新著
實驗的心理學精義
行動篇
兒童心理學精義
十增訂 版

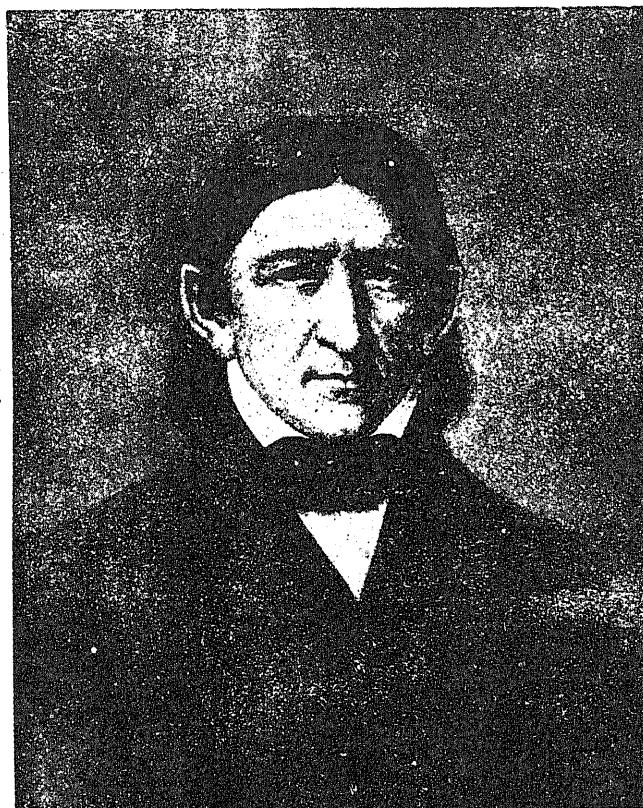
菊判全一冊紙數八百頁
定價金六圓 送料金廿七錢

番七二四八三京東替振
番五二三三込牛話電
店書館文中 所行發

像肖の氏ベルバーレフ

堅一尺二寸七分
横九寸七分

幼稚園の鼻祖
人の大教育者



フリツドリヒ
フレーベル氏

の良い原畫がありましたので、今回印刷に附し廉價にお頒ら致します。各園一本を御備へ下さる様、偏にお勧め致します。

△切手でもお金でも五拾錢お送りにならば、すぐ肖像畫をお送り申上げます。

定價一枚五拾錢
(送料簡代ヲ含ム)

株式會社 東京・神田・一ツ橋・教育會館

フ
レ
ー
ベ
ル
館
振電話九段〇三四五・三六三七・三六三八
替東京一九六四〇

(毎月十五日第三種郵便物認可)
昭和四年五月十五日發行

昭和四年七月十二日印刷納本

定價三十五錢